

令和4年度 いのちの授業 事例集（中学校）【道徳】

掲載数

221

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中2	道徳	生命の尊厳	一方の医師は安楽死を望む母の願いを叶えようとし、もう一方の医師は母親の回復を望む子供たちの願いを叶えようとする。「助ける」という決断により手術で命は救われたが、交通事故により死んでしまう。 教材を通読後、登場人物それぞれの立場と心情を考え、相反する価値観や不慮の事故を通して、生命の尊さについて話し合いながら考えを深めることができた。	学研 新・中学生の道徳 明日への扉 2 「ブラック・ジャック ふたりの黒い医者」
2 川崎市	中複合	道徳	いじめ防止キャンペーン	全学年を対象に、5月にいじめ発生のメカニズムを知るとともに、どのように行動していくべきかを学級担任が資料を用いて授業を行い、学校スローガンについてクラス内で作成する活動を行った。生徒たちはいじめについての考えを話し、防止につながるアイデアについて共有しようと意欲的に取り組んだ。9月には、個人取り組みを「宣言」と言う形で表し、クラス内で発表する活動を行った。生徒たちはより良い学級や学校の雰囲気自分たちの手でつくっていくために真剣に取り組んでいた。	いじめ防止DVD教材を使用・複合学年
3 川崎市	中2	道徳	生命の尊さ	道徳の授業で「そこにいるだけでいい」の資料を扱った。資料の内容は、胎内で亡くなった胎児を出産する母親に付き添った助産師は人が生まれてくることの「すごさ」を実感することから、生命の尊さを考えるもの。授業を通して生まれること、生きていることの意味について考え、自他の生命を尊重しようとする心情を育むことができた。	道徳の教科書「明日への扉」
4 川崎市	中1	道徳	生命の尊さ	道徳の授業で「あなたに」の資料を扱った。資料の内容は、我が子の誕生の喜び慈しんできた母親の心情や、周囲の人々まで喜びに満たされた様子を綴った、愛情に満ちた母の手紙である。授業を通して、自分がかげがえのない存在であることに誇りをもち、自他の生命を尊重しようとする心情を育むことができた。	道徳の教科書「明日への扉」
5 川崎市	中2	道徳	生命の尊さ	主題名「生きることの意味」 生まれること、生きていることの意味について考え、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。また夏休み中（長期休業中）に、自他の生命を大切にする気持ちを持たせるためにも、この時期に行った。	新・中学生の道徳 明日への扉 2 「そこにいるだけでいい」

6	川崎市	中2	道徳	生命の尊厳	死を望む半身不随の母親と、体が不自由な母親を助けたい子供たち、それに関わる2人の医者的心情を考えることを通して、各学級で命について様々な方向性から話し合いを行った。生と死をいう相反することを扱うことで、生徒は命について様々な意見を持った。「自分の命は、自分だけではなく周りの人からも大切にされている」「命は一人に一つだけのもの」「人の命とは尊いもの」「命はすぐなくなってしまうような繊細なもの」「生きる上で一番大切なもの」など、様々な意見が出た。さらに中学生がすぐに口にする「死ね」「殺すぞ」という言葉から、命を軽く見ている人が多いと感じた生徒もおり、生命の尊さについて深く考えることにつながった。	
7	川崎市	中複合	道徳	「SOSの出し方・受け止め方教育」	心の痛みに対処するためのSOSの出し方や受け止め方について、意見を出し合う。 (動画視聴)	川崎市教育委員会 教育政策室作成資料
8	川崎市	中3	道徳	「余命ゼロ 命のメッセージ」	生命の尊さ、かけがえのない生命を尊重する自覚を深めることについて	
9	川崎市	中2	道徳	生命の尊さ 「生命の尊厳」	ドクター・キリコは安楽死を望む母の願いを叶えようとし、一方、ブラック・ジャックは母親の回復を望む子供たちの願いを叶えようとして母親の命を救う。しかし、その後すぐに母親と子供たちは交通事故で死んでしまう。その知らせを聞いたブラック・ジャックは、ドクター・キリコにどんな言葉をかけるのかを考えることによって、命について考えた。生徒は、命を守ったり、つなげたりするのはとても大切だと考えたり、生きることの大切さと、生きることがどれだけ幸せなことなのかということを感じていた。	新・中学生の道徳 明日への扉2 「ブラック・ジャック ふたりの黒い医師」
10	川崎市	中1	道徳	「たとえぼくに明日はなくても」	筋ジストロフィーという進行性の難病にかかった正一君という少年が成長と共に、徐々に進行していく自分の病気の特徴や寿命に気づいていく。たくさんの人との出会いの中で限りある命を嘆くのではなく、どう燃やしていくのかについて考えた末に陶芸に熱中していく。生徒たちも真剣に主人公の正一君の命の燃やし方を見て自分の命も大切にしようとする生徒が多くいた。	中学生の道徳 明日への扉 1年
11	川崎市	中2	道徳	道徳 「ブラック・ジャック」	ドクター・キリコは安楽死を望む母の願いをかなえようとし、一方、ブラック・ジャックは母親の回復を望む子供たちの願いをかなえようとする。人それぞれ幸せが何なのかを深く考えることができ、自分が良かれと思ってやっても相手にとってはそうではないということがわかったので、これからは人の立場に立って物事を考えたいという生徒の感想があった。	中学生の道徳 明日への扉2年
12	相模原市	中1	道徳	命の尊さ	「いのちって何だろう」という作者の問いについて考え、「いのち」とは何か、その尊さを守るためにどのように考えていくのかについて理解を深め、かけがえのない「いのち」を大切にしようとする心情を育てた。	新しい道徳1

13	相模原市	中複合	道徳	命に関する授業	命に関わる授業とイジメに関する授業を各学期はじめに道徳の授業で取り扱い、学校生活を豊かに過ごせるように指導をした。	教科書を利用して授業を行った
14	相模原市	中1	道徳	偏見や差別のないより良い社会の実現に尽くす態度を養う	わが校では、「共生心育成」を教育方針の柱とし、日頃から「認め合い」「他者尊重」「協力」の心や態度を養うような題材を多数行っている。その中でも、「私の妹」や「新ちゃんの流しびな」などの自主教材を通して、自分のいのちは周囲の人によって支えられ、見守られて生きていることに気づき、いのちの大切や感謝の気持ちを自覚することができた。	自主資料「私の妹」「新ちゃんの流しびな」の読み物資料を、共生心担当職員で配役、朗読した音声を活用。
15	相模原市	中3	道徳	人権を考えよう「権利の熱気球」	身近にある様々な権利について考える活動を通し、人権の大切さを考えるとともに、それを尊重しようとする態度を育てるために、人権意識や命の大切さ、いじめの防止についてプレゼンテーションした。また、権利に対して、様々な考え方や捉え方があることを実感し、自他を尊重する意識を高めるために、権利の熱気球のワークショップを実施した。	学校長が体育館で学年の生徒全員に対して実施した
16	相模原市	中2	道徳	人権を考えよう「権利の熱気球」	身近にある様々な権利について考える活動を通し、人権の大切さを考えるとともに、それを尊重しようとする態度を育てるために、人権意識や命の大切さ、いじめの防止についてプレゼンテーションした。また、権利に対して、様々な考え方や捉え方があることを実感し、自他を尊重する意識を高めるために、権利の熱気球のワークショップを実施した。	学校長が体育館で学年の生徒全員に対して実施した
17	相模原市	中1	道徳	人権を考えよう「権利の熱気球」	身近にある様々な権利について考える活動を通し、人権の大切さを考えるとともに、それを尊重しようとする態度を育てるために、人権意識や命の大切さ、いじめの防止についてプレゼンテーションした。また、権利に対して、様々な考え方や捉え方があることを実感し、自他を尊重する意識を高めるために、権利の熱気球のワークショップを実施した。	学校長が体育館で学年の生徒全員に対して実施した
18	相模原市	中複合	道徳	生命の尊さ「かけがえのない生命」	日本で過ごしていると、多くの人は安全・安心な生活を送ることができている。しかし、世界には1日を生き抜くことで精一杯な人がいる。その中には、生徒と同じ年齢の子どもも含まれている。そのことを講師の実体験と実際の様子を映したVTRから、その現状を知るとともに、これからの国際社会について考えた。VTRにはかなり衝撃的なシーンもあり、印象に残った生徒もいたようだった。講話を受けたあとの感想文には、率直に感じたことを踏まえ、これから自分ができることを考え出した生徒もいた。	講師：国連NGO 横浜国際人権センター 1・2年生は、教室でオンライン視聴。3年生は体育館で受講。
19	相模原市	中2	道徳	いじめのない世界へ「私のせいじゃない」	「私のせいじゃない」に描かれている泣いている子の立場に立っていじめの問題について考え、一人ひとりの存在の大切さ、誰に対しても公正に接し、差別や偏見のない社会をつくらうとする心情の育成をねらいとした。授業展開を、体育館にて学年道徳として行い、まとめを各学級で行った。他責思考、集団心理から生じる課題から「個」へ焦点をあて、「個」の「いのち」の大切さについて気づかせ、考えを深めさせることができた。	東京書籍 新訂「新しい道徳2」

20	相模原市	中1	道徳	生命の尊さ	「あなたはひかり 輝く地球の 一粒のひかり」という言葉をもとに自分自身の「いのち」について多面的・多角的に考え、「いのち」の大切さを自覚し、前向きに生きようとする態度を育てる。	あなたはひかり
21	相模原市	中2	道徳	生命の尊さ	「三つのいのち」について互いに意見を述べ合うことを通して、いのちの「有限性」「連続性」「偶然性」などについて考え、生命の尊さを深く理解し、かけがえのない生命を大切にしていこうとする態度を育てる。	三つのいのちについて考える
22	相模原市	中1	道徳	道徳ドキュメントDVD「ペットは誰のもの？」	道徳のDVD教材。野良猫に餌をあげるおばあちゃんの様子。良くない事だと言われ、泣きながら保健所に連れて行き殺処分にする。動物保護のNGOの活動の様子を紹介。このDVDを見ながら生徒に命の大切さを考えさせる授業。	
23	相模原市	中2	道徳	命の重さを感じる	国境なき医師団のに参加した体験談を読んだあと、感じたことを述べる。立場の違う意見を述べ合った後に、実際の体験談の疑似体験をする。それぞれの班で役割分担をして演じ、役割ごとに感じたことを述べ合う。資料を読んだ時とRP的劇の後での命の重さの感覚の変化が見られた。	自主資料「国境なき医師団の人の話」
24	相模原市	中3	道徳	国際理解、国際貢献	「その子の世界」と「私の世界」の違いについて話し合い、国際社会が抱えるの問題の1つである児童労働の解決について考えた。世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする意見が生徒から出てきた。子どもの権利条約について確認した。	新しい道徳3年「その子の世界、私の世界」、「そのこ」
25	相模原市	中1	道徳	いのちを考える	「あなたはひかり 輝く地球の 一粒のひかり」という言葉をもとに、自分自身の「いのち」について多面的・多角的に考え、「いのち」の大切さを自覚し、前向きに生きようとする態度を育てることを目的とした授業を行った。いのちの光り輝く部分だけでなく、影にまで注目し、影があるからこそ光る命の大切さについて考えを深める生徒もいた。	「新しい道徳1」 『あなたはひかり』
26	相模原市	中2	道徳	いのちを考える	妹の誕生に対する「私」や「私の家族」の思いを通して、生命のつながりや関わり合いを考え、かけがえのない自他の生命を大切にしていこうとする心情を育てることを目的とした授業を行った。家族のありがたみを感じながら、一日一日を大切に生きたいと、命の大切さを感じ取る生徒もいた。	「新しい道徳2」 『妹に』
27	相模原市	中3	道徳	いじめのない世界へ 「無実の罪」	ヤマモトさんと、ヤマモトさんを支える友人の言動を通して、誰に対しても公正、公平に接し、差別や偏見をなくそうとする態度を育てた。	道徳教科書
28	相模原市	中1	道徳	いじめのない世界へ (いじめにあたるのはどれだろう)	いじめに当たる行為や判断についての根拠について考えることを通して、人にはいろいろな見方や考え方があつることを理解し、相手の立場や個性を尊重する態度を育てた。	道徳教科書

29	相模原市	中1	道徳	いじめのない世界へ（傍観者でいいのか）	傍観者の視点から「いじめ」について考えることを通して、人間の弱さを克服し、自らの意志や判断で責任ある行動をしようとする態度を育てた。	道徳教科書
30	相模原市	中1	道徳	いじめのない世界へ（ふたつの心）	いじめに関係する人物やその周囲の人の心情を考えることを通して、物事を様々な角度から総合的に考察し、そこに内在する道徳的価値を見極めようとする心情を育てた。	道徳教科書
31	相模原市	中2	道徳	いじめのない世界へ（わたしのせいじゃない）	「わたしのせいじゃない」に描かれている泣いている子の立場に立っていじめの問題について考え、誰に対しても公正に接し、差別や偏見にない社会をつくらうとする心情を育てた。	道徳教科書
32	相模原市	中2	道徳	いじめのない世界へ（あの子のランドセル）	過去の自分の行動に心を痛める主人公の気持ちを考えることを通して、自分の良心に従って行動することの大切さぬ気づき、自ら責任を持って行動しようとする態度を育てた。	道徳教科書
33	相模原市	中2	道徳	いじめのない世界へ（「いじめ」についてあなたはど う思う）	いじめの事例と筆者の訴えを通して、他者を尊重し、差別や偏見のない社会で、ともに よりよく生きようとする心情を育てた。	道徳教科書
34	相模原市	中3	道徳	いじめのない世界へ（「ある日 の午後から	主人公の心情の変化に着目して考えることを通して、自主的な考えのもとに誠実に実行し、行動の結果に責任を持とうとする心情を育てた。	道徳教科書
35	相模原市	中3	道徳	いじめのない世界へ（「いじめ から目をそむけない）	中学生が集まりいじめ防止に向けて行った取り組みについて考えることを通して、いじめの問題に向き合い、自主的に考え判断し、誠実に実行しようとする態度を育てた。	道徳教科書
36	相模原市	中2	道徳	支えあいの中で 愛	健おじさんの、姉の命を大切に思う気持ちや深い愛情について考えることを通して、思いやりの根底には人間尊重の精神があることを理解し、ともに助け合い、協力しあって生きていこうとする心情を育てた。	道徳教科書
37	相模原市	中3	道徳	花火と灯ろう流し	花火と灯ろう流しについての作者の思いを通して、日本の年中行事について理解を深め、先人たちの豊かな心情を感じ取り伝統の継承と文化の創造に努めようとする心情を育てた。	道徳教科書
38	相模原市	中1	道徳	いのちって何だろう	「いのちって何だろう」という作者の問いについて考え、「いのち」とは何か、その尊 さを守るためにどのように考えていくかについて理解を深め、かけがえのない「いのち」 を大切にしようとする心情を育てた。	道徳教科書
39	相模原市	中1	道徳	決断！骨髄バンク移植第一号	悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの姿から、人が互いに支え合って生きていくことの大 切さを理解し、自他の生命を尊重しようとする態度を養った。	道徳教科書

40	相模原市	中1	道徳	あなたはひかり	「一粒のひかり」について話し合い、「いのち」について多面的・多角的に考え、「いのち」の大切さを自覚して、輝いて生きようとする態度を養った。	道徳教科書
41	相模原市	中2	道徳	妹に	妹の誕生に対する「私」や「私の家族」の思いを通して、生命のつながりや関わり合いを考え、かけがえのない自他の生命を大切にしていこうとする心情を育てた。	道徳教科書
42	相模原市	中2	道徳	奇跡の一週間	北村さんとの出会いを通して「私」が考えた「いのち」について考え、かけがえのない生命をいとおしみ、限りある生命を輝かせて生きていこうとする心情を育てた。	道徳教科書
43	相模原市	中2	道徳	三つのいのちについて考える	「三つのいのち」について互いに意見を述べ合うことを通して、いのちの「有限性・連続性・偶然性」について考え、生命の尊さを深く理解し、かけがえのない生命を大切にしていこうとする態度を育てた。	道徳教科書
44	相模原市	中3	道徳	生まれてきてくれてありがとう 助産師からのメッセージ	助産師のメッセージに込められている、船名の誕生に対する責任感や喜び、感謝の念、生命の神秘性を通じて、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする態度を育てた。	道徳教科書
45	相模原市	中3	道徳	いのちを考える くちびるに歌をもて	極限の状況にあっても自らの生命の力を信じ、互いに支えあって生きぬいた人々の姿を通して、どんな状況であっても、自己の生命を守り、大切に生きていこうとする態度を育てた。	道徳教科書
46	相模原市	中3	道徳	いのちを考える 人間の命の尊さ・大切さを考える	尊厳死をめぐる裁判をもとに、生命の尊厳についてさまざまな立場から多面的・多角的に考え、生命倫理について関心を深めるとともに、自他のかけがえのない生命を尊重しようとする態度を育んだ。	道徳教科書
47	相模原市	中2	道徳	六千人のビザ 国際理解、国際貢献	「外交官、杉原千畝」と六千人のビザ等で、第二次世界大戦ごろの国際情勢やナチスドイツのユダヤ人迫害について学んだ。	道徳教科書
48	相模原市	中複合	道徳	生命の尊さについて、その感受性や有限性などを含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること	各学年、道徳（教科書新しい道徳）で以下の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1学年12月「小さな命スペシャル」(VTR) ・ 1学年2月「あなたはひかり」 ・ 2学年1月「書かれなかった遺書」 ・ 2学年2月「奇跡の一週間」 ・ 3学年9月「くちびるに歌をもて」 ・ 3学年12月「あなたはすごい力で生まれてきた」 	

49	相模原市	中複合	道徳	人権福祉教育 「いのちの大切さを学ぶ教室」	講演・DVD視聴 いじめにより命を落とした実際の子どもの事例を本にしたアニメを視聴した後、講演を通して命の大切さを考える授業を行っていただきました。生徒は授業を通して「どこかの誰かの話」ではなく、自分たちの身近にありうる出来事だということ、相手の立場に立つこと、相手の気持ちを想像することの大切さを学びました。	対象学年：全学年 講師：神奈川被害者支援センター 犯罪被害相談員 スクールアドバイザー 教材：DVD「1ニュートンの勇気」
50	相模原市	中1	道徳	「やまゆり園」の事件について考える	やまゆり園の事件について、当時の報道やその後の経過、被害者の証言の映像を見て、命の重さや障害者に対する差別をなくすためにできることを考えた。	7年（中1）の支援級での実施
51	相模原市	中1	道徳	「骨髄バンク」	「プロジェクトX挑戦者たち 決断 命の一滴～白血病・日本初の骨髄バンク～」を鑑賞し、他者の為に命をかけて骨髄を提供するドナーについて考えた。	7年（中1）の支援級での実施
52	相模原市	中2	道徳	DVD教材「東京マグニチュード8.0」	道徳のDVD教材。首都直下地震が起こり、家族がバラバラになる中で、兄弟で家にたどり着く物語（アニメ）急な首都直下の大地震の中で多くの人々が犠牲になり、人々が助け合いながら生きていく姿を通して、命の尊さや助け合うことの大切さについて考える。DVDを視聴しながら生徒に問いかけ、考えさせていく授業。	
53	横須賀市	中2	道徳	生命の尊さ	ダウン症をもって生まれた秋雪くんの生きる姿を見て周りの人がどう思ったかを考えることを通して、精いっぱい生きていこうとする心情を育てる。生徒は、教材や話し合いを通して、精いっぱい生きるとはどのようなことかについて真剣に考えていた。勉強や部活に全力で挑戦するのはもちろんだが、その時、その瞬間自分が感じる「感情」についても懸命に考えるという意見もあった。	中学道徳2 教育出版 『たったひとつのたからもの』
54	横須賀市	中複合	道徳	防災教育 「震災時の実状を知り、いのちを守る」	地震が起きたときに、事態を把握するまでの困難さを物語る実体験に始まり、冷静に状況を見極めるために心掛ける点や注目すべき点をお話いただき、迅速な避難活動をするために個人が果たすべき役割を学んだ。自分の命だけでなく、助け合いによって守り合うために必要なこととして、日頃から自分の考えや状況を他者に伝えることで他者と関わることに慣れている必要があることを実体験を通して学ぶことができた。	講師は、東日本大震災を福島県で被災し、警察官として一般人を沿岸部から誘導し避難活動に尽力した方。実際の映像と共に体験談を聞くことで実状を理解し、自分事として捉えられた。
55	横須賀市	中2	道徳	道徳内容項目 生命の尊さ	「脳死」は「人の死」として捉えるか。 自分自身が「脳死」となった場合、臓器移植するか。 大切な人が「脳死」となった場合、臓器移植に賛成するか。 臓器提供してもらった人や、臓器提供する側の家族の話を読んだうえで、自分は移植するか、大切な人の移植に賛成するかを考えた。	保護者の方のアンケートなどを用いたりすることで、同年代の考えだけでなく大人の考えを知ることができた。
56	横須賀市	中複合	道徳	薬物乱用防止講演「薬物から命を守る」	講師をお迎えし、薬物乱用による心身への影響、依存症、疾病との関連、社会への影響などについてスライドを見ながら、その影響や自分の人生や命を大切にするとはどういうことなのか理解を深めることができた。講演後に書いた感想文から、薬物乱用による影響がみられる画像や実例を含めた話から、生徒は自分の事として受け止めている様子が見られた。	講師は、神奈川県警察本部少年育成課 少年相談・保護センター 係長 1年・2年・3年

57	横須賀市	中2	道徳	「六千人の命のビザ」	杉原千畝の決断を支えた思いについて話し合うことを通して、国際的視野に立って命について考えた。何千人もの命を救うために筆を動かし続けた杉原千畝の生き方を学ぶ中で、世界の平和と人類の発展に寄与する大切さに気づき、自己の人生に生かしていく意欲を育んだ。また、動画資料を通じてユダヤ人の歴史を知り、生きることの大切さを改めて考えた。	中学道徳② とびだそう未来へ
58	横須賀市	中2	道徳	たったひとつのたからもの	「たったひとつのたからもの」を読み、精一杯生きることについて全体で話し合い、深める。精一杯に生きることはどういうことかを話し合いを通して、一人ひとり考える。	道徳の教科書
59	横須賀市	中3	道徳	臓器提供についてどう考えるか	教科書にある「家族の思いと意思表示カード」は、主人公の姉が交通事故に遭ってしまう。病院に呼ばれた家族は姉が臓器提供の意思があるが、どうするか判断を任される内容である。 授業ではまず、「命を大切にすることってどういうこと？」という発問から始めた。そこから臓器移植希望登録者数、提供数、移植を受けた人数(2022年10月31日時点)、脳死と心停止の違い及び提供できる臓器の違いを説明した。 それを理解した上で、主人公の立場ならどうするか、生徒自身なら臓器提供意思カードをどうするかを考えさせ、最後に初発問をもう一度行い、改めて「命を大切にすること」について考えさせた。 重い題材だったが、一人一人がよく向き合い考えを深められていた。	3年 とびだそう未来へ 「家族の思いと意思表示カード」
60	横須賀市	中1	道徳	いのちを考える	地球上の生き物の中で、好きな生き物やいなくなったら困る生き物を上げさせ、自然や人間との関りや、身近な動植物をはじめとする生命の尊さについて学習した。教科書のイラストやグループでの活動を通して生命について多面的・多角的に捉えることができ、読み物を使用して生命の有限性や連続性について深く考えることができた。	教科書：教育出版【中学道徳① とびだそう未来へ】
61	横須賀市	中2	道徳	家族愛・家庭生活の充実	ベストセラーにもなった井村一清さんの「飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ」のこれから生まれてくる子への手記を題材にグループやクラスで話し合いを行った。家族とはなにか。家族愛について話し合ううえで、家族が「あなた」を思う気持ちを改めて考えると、「あなた」の命は、「あなた」のものであると同時に「あなただけ」のものではないことを確認できた。家族の幸せとは何か、「あなた」にできることはなにか。改めて深く考える授業となった。	教科書：教育出版【中学道徳2 とびだそう未来へ】
62	横須賀市	中複合	道徳	学校における自殺予防教育プログラム	この授業を行う前に昨年、一昨年に引き続き、教師向けのゲートキーパー研修を行った。授業の内容は「①心の危機のサインを理解し、心の変化に気づけるようにする。②人にSOSを出す、他人のSOSを受け取る方法を中心に心の危機に陥ったときの対処方法を学ぶ。③専門機関や社会資源を知り、援助を求める行動について見聞を広げる。」である。構成的グループエンカウンターを用いてグループワークを重視した。価値の押し付けにならないように生徒の気持ちに寄り添うことに留意してすすめた。	授業者は各学級担任。 2, 3年の全クラスで実施。全2回。 養護教諭の指導案をもとにワークシートを使った学習。

63	横須賀市	中3	道徳	家族の思いと意思表示カード	交通事故に会い、脳死状態になった姉が臓器提供の意思表示をしていた。脳死を受け入れることのできない家族の心情も理解できる。こうした点に焦点を当て、生徒が中学生の主人公の立場に自分に置き換えて葛藤することを通して、生命を尊重する思いを深めることができた。	授業者は各学級担任。 3年の全クラスで実施。 教科書とワークシートを使った学習。
64	横須賀市	中3	道徳	B 主として人との関わりに関する事【相互理解、寛容】	『嵐にあつて船が座礁する。最後の救命ボートに乗れるのは4人。しかし船には6人(女子中学生・無職の老人・医者・医者の妻(妊娠4ヶ月)・アルコール中毒の僧侶・人気女優)。ボートにはどの4人を乗せればよいだらう。』という場面を用いてテーマ達成を狙った。 初めは、「女子中学生・医者・医者の妻・人気女優」の4人を乗せるという意見が多かったが、「老人や僧侶の今までの人生」を考える生徒が出てきて、最終的には、すべての人の命は平等であり、大小や軽重などはないことに気付いていった。そして、全員が助かる道を探すようになった。	資料「エンカウンターで道徳」(明治図書、諸富祥彦・齋藤優 編著)
65	横須賀市	中3	道徳	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事【生命の尊さ】	ねらいを「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を大切にしながら、より良く生きようとする態度を育てる」と設定して授業を行った。 学習内容としては前半で、相田みつをの詩を用いながら、自分を起点に過去と未来(予想しながら)の家系図を書かせることで、命の広がりを実感させ、自分が存在しなければこの先の命は繋がらないことに気付かせた。そこから後半の「Erikas story」につなげ、中心発問として、『「いのちのバトンは投げ出せない」とはどういうことだろうか?』をテーマに話し合い活動を行った。話し合いの中で、他者の意見を聴くことで、より命に対する考えが深まる生徒も多く、自分の命だけでなく、周りの人の命も大切にしようとする心情態度の成長も伺えた。	教材名 「中学道徳3 心つないで」 (教育出版)
66	横須賀市	中3	道徳	家族の思いと意思表示カード	道徳の教材を通して、「意思表示カード」について考えた。主人公の思い、意思表示カードを持つ姉の思い、そして家族の思いを通して、生命をどのように大切にするかを考え、かけがえのない生命を尊重しようとする心情を育てることを目的に授業を行った。意思表示をした側の思いや、残された家族の思いなど、様々な角度から多面的に生命について考えることができた。また、自分自身に置き換え、「もし自分が…」 「もし家族が…」と考えを深めることができた生徒もいた。	3年の各担任が実施。 「中学道徳3 とびだそう未来へ」教育出版
67	横須賀市	中3	道徳	生命の尊さ	「ハゲワシと少女」を取り上げ、カメラマンの視点から少女の命について互いの意見を討論した。その場で助けるべきという意見と、写真を撮り世界に発信することも大切という意見など、それぞれの意見に触れることで、自分の考えを深めることができた。	教育出版 「中学校道徳3 とびだそう未来へ」
68	横須賀市	中2	道徳	たったひとつのたからもの	ダウン症で生まれた男の子が両親の愛情に包まれながらさまざまなハンデの中で6年間生きたという物語を読み、その後DVDでドラマを鑑賞した。そして、グループ活動を中心に、「男の子が障害と向き合いながら一日一日を精いっぱい生きていく姿が周りの人々に伝えたもの」について考えた。生徒たちはこの題材を通して必死に生きることのすばらしさや、投げやりにならず一生懸命に生きることの大切さなど、生命の尊さについて考えを深めていた。	道徳の教科書 『とびだそう未来へ』 DVD 『たったひとつのたからもの』

69	横須賀市	中1	道徳	全ての生命への祝福「あなたがうまれたひ」	生命誕生の喜びを謳った絵本作品からの抜粋である。生徒自身が生まれた日について知っていることを自由に出させ、その日世界では何が起こっていたのかを考えさせた。さらに、「あなたがうまれたひ」を読み進めながら、どのような気持ちが込められているかを想像させ話し合った。「あなたは迎えられている」「あなたが大事」という温かな気持ちを強めながら、命はかけがえないものであるから大切にしたい。生まれてきたことに感謝したいなどと、自他の生命と向き合うことができた。	教育出版社 「中学道徳1」
70	横須賀市	中1	道徳	生命の尊さ「いのちを考える」	人、動物、植物、すべての生き物に共通していることは何なのか、なぜ命を奪ってはいけないのか、ということについて話し合わせた。たくさんの生き物の命を奪い続けることによって、人間は快適に生きている、ということに気づかせ、自分たちが生きていくために、必要な、かつ最小限のいのちを大切にいただき、感謝の気持ちをもって生きていくことについて考えた。社会科や家庭科の実践とつなげて考えている生徒も見られた。	道徳教科書 中学道徳1 『とびだそう未来へ』
71	横須賀市	中2	道徳	生命の尊さ「たったひとつの宝物」	生まれてすぐに短命であるという宣告を受けた、障がいを持つ少年の話をもとに、周りの人のかかわりや、精一杯生きるとはどのように生きることなのか、ということについて考えた。「人の幸せとは、命の長さではないのです」という作中に出てくる医者という言葉と、懸命に生きた少年の姿をもとに、自らの生き方について考える生徒の姿が見られた。	道徳教科書 中学道徳2 『とびだそう未来へ』
72	横須賀市	中複合	道徳	防災	防災の場面を想定し、他者との交流を通して、状況に考慮した行動を考える。カードを用いた活動を通して、「状況」を考慮した行動を対話を通して思考し、班にとっての最適解を導きだすことを目標とする。	中1～3 9月1日 同じ内容の授業を実施
73	横須賀市	中1	道徳	LGBTQ	「自分らしく生きる」をテーマに扱う。横須賀市市長室「人権・ダイバーシティ推進課」のリーフレットと同様の内容で、体の性、心の性、好きになる性、性別表現について理解する。	中1 半分集会形式で、一斉に話を聞き、その後、クラスに分かれる。
74	横須賀市	中2	道徳	「障害」を考える	様々な障害と人それぞれが持つ困り感について知り、誰もが幸せに生きていくためにどうすればいいかを考えた。授業の中で、自分の困り感を自ら伝えた生徒が数人いた。また、トムクルーズやアインシュタインのように世界的に活躍する人の話も参考にした。「個性や考え方を尊重する」「自分らしく、思うように生きていく」「人として優しく接していく」などの感想が上がった。	
75	横須賀市	中1	道徳	「生命の重さについて」	「自分で治せないなら壊してはいけないから、生き物を殺してはいけない」という筆者の考えを受けて、「なぜ生き物を殺してはいけないのか」について自分の意見を考えて、ほかの人たちと意見交流を行った。	中学校道徳①(教科書) とびだそう未来へ 20「いのちを考える」 P114～117

76	横須賀市	中2	道徳	「生命の尊さ」	紛争という極限状態における貫戸明子さんの判断についての議論を中心に、命を大切にすることはどうゆうことなのか？について、考えを深める。命に対する判断の難しさを実感し「命を大切にする」ということについて他者との共有しながら考えを深めていった。	中学校道徳②(教科書) とびだそう未来へ 8「国境なき医師団・貫戸明子」 P44～P47
77	横須賀市	中2	道徳	命を大切にすることは	「国境なき医師団・貫戸明子」の中で、貫戸さん自身の選択について投げかけた。「戦地で運ばれてきた、もう助からないと判断した瀕死の5才の男の子に酸素ボンベを使うべきか。酸素ボンベは1本しかない。次にいつ入手できるかもわからない」という内容だ。目の前の命を全力で救うべきだという意見や、より多くの命を救うために残しておくべきだという意見などが出たが、他の意見を聞く中で、「命」について深く考える時間を持つことができた。また、「自分自身にできることは何か考えて行動する」など、自分ごととして考える生徒もいた。	「国境なき医師団」のHPを見て、活動意義を理解した上で主人公の医師の選択について考えた。
78	横須賀市	中1	道徳	「いのちを考える」	導入として、教科書の挿絵をもとにいなくなったら困る生き物を考え自分たちとの関わりについて考えた。教科書「なぜ殺してはいけないのか」を読み、「いのちなしには生きられない」という文章中の言葉を中心に考えを深めた。その中で人間は他の生き物たちに支えられて生きていて、その生き物たちに感謝することの大切さに気づく生徒の姿が見られた。また、自分の命や他の人の命の尊さ、今自分が生きていることのありがたさを感じた生徒もいた。	教育出版 「中学道徳1 とびだそう未来へ」
79	横須賀市	中2	道徳	「精一杯生きる」	「毎日を、どんな気持ちで生きているか」という問いをきっかけにして生きるということの意味について考えさせた。障害を持って生まれた「秋雪くん」のイメージをもたせるため、CM動画「家族写真」を見せた。楽しそうな表情から家族の様子を想像した生徒が多かった。資料を読み、「お母さん」の気持ちの変化を考える生徒がいた。生きているだけでうれしかった、幸せを感じたというお母さんの思いは生徒にも想像しやすかった。「秋雪くん」の生きざまから周りの人が感じたことを話し合う中で、精一杯生きるとはどのように生きることかや毎日の生活の中に幸せがあることに気づく意見も出た。	教育出版 「中学道徳2 とびだそう未来へ」 6「たったひとつのたからもの」
80	横須賀市	中複合	道徳	生きることの大切さ	東日本大震災の時に、岩手県大槌町において津波で行方不明になったある人物をめぐる実話を題材に、最愛の子供を失った両親や婚約者の気持ちに立ち、失意の底から立ち上がる人たちの姿を通して、命の大切さ、互いに支え合いながら生きることの大切さを多方面から考えさせた。	校長
81	横須賀市	中複合	道徳	人権・いのちの大切さ	2014年にノーベル平和賞を受賞したマララさんのスピーチを軸に、マララさんの生き方に触れ、当たり前前に学校に通い学習できるありがたさ、夢に向かって生きる大切さを考えさせた。	校長
82	湘南三浦	中2	道徳	「垣根をこえて」	第2次大戦中にユダヤ人を救った杉原千畝さんをはじめ「命のリレー」をした人々のエピソードを知り、命を何より優先して行動した態度について考えた。	東京書籍 「新訂新しい道徳2」

83	湘南三浦	中1	道徳	いのちを考える 「いのちって何だろう」	中2の夏に病気で入院した筆者の経験をもとに「『いのち』って何だろう」、「なぜ『いのち』は大切なのか」について考えた。	東京書籍 「新訂新しい道徳1」
84	湘南三浦	中2	道徳	私は14歳 今を生きる	＜ねらい＞ ・どんな環境においても自分の良さを見いだしそれを伸ばそうと努める意欲を育てる。 ＜内容＞ 主題に関わる問題意識を持たせ、登場人物を自分に置き換えて「自分ならどうするか、なぜそうするのか」を考えさせる。	教科書 中学道徳2
85	湘南三浦	中1	道徳	命について考える	3年の道徳の教科書に載っている「カレン・クインラン事件（尊厳死を認めるかどうか）」を、あえて1年生において葛藤資料として2時間構成で扱った。 1時間目：尊厳死を認めた方がよいのか、認めない方がよいのかを切り口に、命の重みをどう考えるか、話し合った。 2時間目：一人ひとりが学級の仲間になりたい「問い」で授業を進め、命を大切にするとはどういうことなのか、一人ひとりの命への想いを語った。	授業担当および指導案検討：1学年職員全員 授業の流れの大枠は全クラス同じだが、生徒の意見や生徒の問いによって、話し合いの内容は異なる。
86	湘南三浦	中2	道徳	いのちの授業	「日本の若者は幸せか：ユニセフ報告書より身体は世界一健康だが心は世界で最下位レベルである」から始まり、辛い・苦しいと感じたときのSOSの出し方、心の痛みの気づき方や対処法、自尊感情の育み方、他者を傷つけないコミュニケーション、レジリエンス（困難から立ち上がっていく力）などについてのお話を聞いた。「大人に相談してほしい。あきらめないで3人目までの大人に伝えてほしい」と生徒に熱く語ってくださった。	BPO青少年委員 前防衛医科大学校 精神看護学教授
87	湘南三浦	中2	道徳	命を考える	2年生の教科書に載っている「妹に」と「奇跡の一週間」を2時間構成で扱った。直前に2年生対象にいのちの教育講演会が行われており、そのときの「誰かの居場所である」という言葉をテーマに授業を行った。「妹に」では、家族や友人といった人間関係によってできたつながりから誰かの居場所になるということについて考えた。「奇跡の一週間」では、命はいつか終わりが来るという観点から、全力で何かに取り組むことの尊さを学び、自分は今何ができるか、誰かのために何かできることはあるかということ考えた。	授業担当 2年職員 教材 東京書籍（新しい道徳）
88	湘南三浦	中2	道徳	いのちの大切さ	何ができるか、何を持っているかということで、自分の価値を判断するのではなく、生きているということ、それだけで素晴らしい価値があることを、物語教材を通じて実感していた。登場人物は人形であり、それぞれ個性や能力の違いがあるが、造り主である人形職人は、それぞれの人形を同じようにかげがえのないものとして愛している、というストーリーに沿って、自分の欠点や課題にばかり目が行きがちな生徒も、自分の命そのものが持つ価値を考えた。	道徳担当学年職員

89	湘南三浦	中2	道徳	命について	学年道徳として、さだまさしさんの「命の理由」を用いて、考えさせた。事前に家庭で自分の生まれた日の様子と自分につけられた名前の願いをきいてもらった。プライバシー保護の観点から無理のない範囲でお願いをした。当日は担当者の説話を聞き、自分のことを話してもよいという人に語ってもらった。その後画像で「命の理由」を流し、命の大切さを改めて深く考える時間を共有した。	
90	湘南三浦	中2	道徳	死と向き合う勇氣	11月に実施した『命』のことをふまえて、「猪木寛二さん」の生き様を描いた画像を通して、死について深く見つめた。最期まで自分の信念にしたがい、潔く元気を出し切り生き続けていく猪木さんの姿に、深い感銘を受ける生徒も多かった。日頃から「シネ」という言葉を平然と使う人たちにも生きること、死と向き合うことを直接的に見せつけられて、考えを改める生徒の姿が多く見られた。	講師は各担任
91	湘南三浦	中2	道徳	命について考える	生徒たちの誕生日がいつなのか、誕生日をなぜ祝うのか、という質問から始め、道徳の教科書も読み聞かせながら、赤ちゃん情報として①おなかの中にいる期間②生まれたときの体重・身長③1回に飲むミルクの量④歩けるようになる歳⑤生まれてきた確率などを予想させてから、命があるのは当たり前ではないこと、生まれる前も生まれた後も大事に育てられてきたことに気付かせ、自ら命を絶ったり、人の命を奪ったり、命を脅かす行為(いじめ等)は許されないということを訴えた。	併用教材「中学道徳2」⑧命が生まれるそのときに
92	湘南三浦	中2	道徳	「生きている」と感じる時	導入で赤ちゃんや育児について10問クイズを出し、生徒の題材への関心を高めた。そして、テレビドラマの教材を用いて、出産におけるそれぞれの壮絶なドラマを視聴した。皆、真剣な表情で食い入るように出産シーンを観ていた。その後、出産を撮影することをライフワークにしているフォトグラファーの体験を綴った教材を読んだ。授業後の感想の中に、命の誕生の尊さに気づき、自分を大切にしたいという記述があった。	教材①道徳の教科書 教材②TBSドラマ「コウノドリ」
93	湘南三浦	中2	道徳	ストレスマネジメント	2コマを使い、ストレスについて、ストレスとの付き合い方等について考えた。1コマ目では、ストレスについて学び、ストレスがどのように増えていくか、身体にどのような影響を及ぼすか等を教わった。その中で、簡易的な緊張の解し方を教わったが、生徒たちはその効果を実感し、授業後でも行っている者が多く見受けられる。2コマ目では、より具体的な内容に入り、「どのような時にストレスを感じるか、そのストレスをどう発散するか」を吐き出し、共有し合った。この作業を通じて、新たなストレスの発散方法を得た生徒、「自分だけじゃない」と気楽にすることが出来た生徒、新たなストレスとの付き合い方を得た者など、様々な良さが見受けられた。	本校に来て頂いているSCさんに講師を務めて頂いた
94	湘南三浦	中2	道徳	「生きている」ことの尊さについて考える	詩「いのちの音」と、出産を撮影するフォトグラファーの文章や写真を通して、「生きている」ことの尊さについて考えさせ、生命を尊重する心情を育てことをねらいとした。授業者の出産現場での経験や1年の保健体育での「生殖機能」の学習、授業者の交通事故・病気の体験談などを関連づけて話すことで、生徒にとってより印象的に「いのち」の大切さについて考える機会となった。	教科書「きみがいちばんひかるとき」 「命が生まれるそのときに」

95	湘南三浦	中2	道徳	ユニセフ「ウクライナについて」	ユニセフ講師の方を2名お招きして、2年生全クラスで戦禍の子供達の現状を写真やDVDを使って授業をしていただいた。現在もウクライナだけではなく、世界には戦争で家族と離れて暮らしたり、戦争により学校に行けない、衣食住が脅かされている子供達の現状を学ぶことができた。またSDGsと関連したその他の資料もたくさん見せていただき、戦争による被害だけでなく、きれいな水を飲むことすら困難な状況にある子どもたちがいて、たくさんの命を落としている現状も学習した。また、環境福祉委員会のユニセフ募金活動では、全校生徒でYouTubeのユニセフ「ウクライナ」の動画を見て、ユニセフの募金活動についてとウクライナの子供達の現状を知り、全校で3万円以上の募金を集め寄付することができた。	ユニセフ神奈川支部より講師を2名招き、2年生5クラス全てで授業を行っていただいた
96	湘南三浦	中1	道徳	生命の尊さ 「捨てられた悲しみ」	犬猫に関する調査とペット飼育についての啓発ポスターと、犬猫を収容するセンターで働くこずえさんの話を読み、捨てられた犬や猫の殺処分の現状を知り、動物の命の重さについて考えた。授業を通して、命は人間だけにあるものではなく、他の生き物にも生命があることを意識し、大切にしていこうとする考えを深めた。	中学道徳 「きみがいちばんひかるとき」
97	湘南三浦	中1	道徳	公正、公平 社会正義 「わたしのいもうと」	転校してからクラスメイトにいじめられ、弱っていき亡くなってしまったいもうとをもつ「わたし」の話を通して、いじめの悲惨さや生命の尊さについて考えた。話し合いを通して、普段自分が気にしていないことや言葉が、人にとって受け取りが違ったり、自分の言葉によって人を追い詰めてしまうことがあることを、話し合いを通して学んだ。	松本みよ子著 「わたしのいもうと」
98	湘南三浦	中2	道徳	拉致問題 「横田めぐみさんの拉致をめぐって」	授業の前半は、政府の拉致問題DVDを視聴して、事件の概要と必死の救出活動のあらましをつかんだ。後半はプリントで補足しながら、めぐみさんやご家族の気持ちなどをより深く考えるようにした。また、どうしたらめぐみさんを救出できるかを各自プリントに記入した。もう少し時間がかかるかもしれないが、粘り強く北朝鮮と交渉すること、もっと多くの国民がこの事件をしっかりと認識し、ひとつとにしないことなど前向きな意見が多数出て、生徒達もこの問題への認識を深められたと思う。	北朝鮮による日本人 拉致問題ビデオ 「めぐみ」
99	湘南三浦	中1	道徳	生命の尊さ 「捨てられた悲しみ」	日本動物愛護協会のポスターを導入で扱い、ペットの殺処分についての資料や、実際の動画などを見ながら、授業を進めていった。はじめのうちは、「ただただかわいそう・・・」という表面的な発言が多かったが、保健所に預けなくてはならなくなった理由などを見ていくうちに、いろいろな角度からものを考え、自分がペットを飼うとしたときについても考えることができた生徒もいた。3年間を見通して、「いのち」について考えるため、1年生では、身近なペットの話題を扱い、2年生・3年生では、自分のいのちについての内容を扱うなど、来年・再来年度につなげていきたい。	中学道徳1（光村図書）
100	湘南三浦	中2	道徳	生命の誕生	「赤ちゃん誕生」の舞台裏。年間2800件ものお産が行われる病院に潜入し、新たな命が次々に誕生する瞬間に密着。出産の裏で繰り広げられる助産師たちの奮闘と生命の誕生に寄り添い、生命の尊さや命にかかわる仕事に携わる大切さについて考えた。	nhk 100カメ 「生命の誕生」

101	湘南三浦	中3	道徳	命の尊さ	東日本大震災の被害者への支援プロジェクト（北海道の「君の椅子」プロジェクト）を巡る実話を通して、家族の大切さ、命の尊さについて考えた。身近の人の死、誕生に揺れ動く家族の気持ちに寄り添い、自分や自分の周りの人たちが大切な存在であることをあらためて感じ、お互いの意見を聞き合った。	「あの日 生まれた命」 ポプラ社
102	湘南三浦	中2	道徳	生命の尊さ	道徳教科書の「奇跡の一週間」を題材に、生命の連続性や有限性について考えた。ホスピスにいながらも依頼された絵を真剣に描くことで今持っている力を出し切ろうとしている主人公と真剣に注文をつける私との交流から、私の考えの変化を話し合った。私が「死んでしまった人」ではなく「一生懸命生きていた人」と言った理由について議論し、限りある人生を自分はどう生きるか、また生と死について考え一人ひとりが命のあり方に向き合った。	新訂「新しい道徳2」（東京書籍）
103	湘南三浦	中複合	道徳	LGBT+について	ReBit教育事業部より講師を招き、オンラインで講演をしていただいた。「多様な性ってなんだろう？～互いの違いを受け止めあえる社会を目指して～」という演題で、講師自身のセクシュアリティ説明、ライフヒストリーについてお話をいただき、「ふつう」「あたりまえ」を問い直し、「ちがひ」「多様性」について想像するワークを行った。また、身近な人からカミングアウトを受けたらどうするかを想定してグループで話し合いをした。	ReBit教育事業部 ・ワークシート
104	湘南三浦	中複合	道徳	ねずみくんのきもち	絵本「ねずみくんのきもち」を読んで、いじめについて考えた。「弱くて小さいことを理由に、ねこくんからいじめられていることは仕方のないことなのか？」を導入で考え、一番大切なことは「思いやり」であるということ共有した。また、今までの経験で思いやりがなかったと感じた経験を思い出し、そのときにどのようなことが起こったか、どのような気持ちになったかについて振り返った。授業のまとめとして、いじめをなくすためにはどのような行動をしていけばよいかを考えた。	絵本「ねずみくんのきもち」 作 なかえよしを ・ワークシート
105	湘南三浦	中2	道徳	命の有限性	道徳の教科書で扱っている「奇跡の一週間」の題材から、命のことについて授業を進めた。題材と向き合う中で、命の尊さとその有限性について深く考えた。今日のこの瞬間は、昨日亡くなってしまった人が、どうしても生きてかかった「今日」であり、いずれは自分にもその瞬間がやってくるため、今のこの瞬間を一生懸命に大切にすることが大切であるということを確認した。その後、生徒自身が自分にとって一生懸命に生きることについて考え、一人一人の一生懸命を共有し、多様な生についての価値観について理解を深めた。まとめでは、命の有限性を踏まえて、今後の自分の行動を見直そうとする記述も見られた。	東京書籍 「奇跡の一週間」
106	湘南三浦	中2	道徳	奇跡の一週間	最後まで精一杯生きようとした北村春夫さんの生き方を通して生命の尊さ（生命の有限性）を理解し、自己の生命を大切にすることを考えた。北村さんに出会うまではホスピスの患者さんに対する気持ちは少しでも患者さんの苦しみを減らしてあげることだったが、精一杯最後まで生きることの素晴らしさに気づいた。	東京書籍 「新しい道徳2」

107	湘南三浦	中2	道徳	国際理解 国際貢献	第二次世界大戦中のユダヤ人にビザを発行し続けた杉原千畝の活動を通して文化や生活習慣の違いを認め合い、人間として尊重し合う態度について考えた。	教材『新しい道徳』 (東京書籍) 「六千人の命のビザ」
108	湘南三浦	中1	道徳	いのちを考える 「決断！骨髄バンク移植第一号」	主人公は、骨髄バンクへの協力について葛藤していたが、協力をするという大きな決断をする中で、命をつなぐことの大切さについて改めて気づかされる話をもとに授業を行った。生徒たちは中学校1年生ということもあり、「いのち」について深く考えることに困惑している様子も見られたが、実話を基にしていることもあり、自分や自分の家族の「いのち」について深く考えていた。	新しい道徳1 (東京書籍)
109	湘南三浦	中3	道徳	いのちを考える 人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える—	認知機能が回復しないと診断された患者の医療措置を打ち切るかどうかについて行われた裁判での話をもとに、命は一人の命ではなく、たくさんの人の思いから成り立っている点や、一人の命を救うために多くの人が結集するほど重みがあるということを考えて。実際に人の死に遭遇したことがある生徒とそうでない生徒では“死”についての認識が異なっており、生徒一人一人の尊厳死に対する考え方の違いがよくわかった。また、自分自身の場合と、家族の場合では考え方が違うこともわかった。	新しい道徳3 (東京書籍)
110	湘南三浦	中2	道徳	奇跡の一週間	「奇跡の一週間」を範読後、北村春夫さんの言動から、命について考えた。身近な人や作品の中の好きなキャラクターの死から、命には限りがあるという当たり前のことを、多くの生徒は理解していたが、それを自分の人生に置き換えることが本授業からできた。限りある命、限りある学校生活をどう過ごすかを、全員で考えることができた時間になった。	授業者 2年職員 教材 東京書籍『新訂新しい道徳2』「奇跡の一週間」
111	湘南三浦	中3	道徳	命・国際理解	世界で、死と隣り合わせで生活している子どもについて知り、自分たちの日常のありがたさを実感した。また、平等に与えられているはずの命の重みが国によって異なるように感じるのはなぜか、“平等”という言葉がさらに浸透していくために必要なこと、私たちにできることは何かを考えた。	「新しい道徳」東京書籍を使用した
112	湘南三浦	中2	道徳	アンネのバラ	ユダヤ人のアンネ・フランクの死を悼んでつくられた新種のバラについて読む。そこから、平和への思いをつなぎ、「命のバトン」をリレーしていることを知り、考えを深める。	中学道徳② きみがいちばんひかるとき (光村図書)
113	湘南三浦	中2	道徳	生命の尊さ	脳死状態になってしまった娘に関して、臓器移植をするか・しないか、について考える。その中で生きているとはどういう状態をさすのか？命とはどういうものなのか？について今の自分の立場・親の立場など様々な視点で考え、意見を仲間と共有することで命についての様々な視点を感じることができた。	【教材】 光村図書「きみがいちばんひかるとき」

114	湘南三浦	中2	道徳	「ハンセン病の向こう側」	<p>道徳の授業でハンセン病患者について扱った。「ハンセン病の向こう側」というパンフレットを使いハンセン病はどんな病気なのかを知り、その後、ハンセン病に関わる動画を観た。そして、「だれもが幸せになれる社会を実現するためにはどうしたらよいか」をテーマに話し合いを行った。</p> <p>生徒の意見①「誰もが平等に幸せになるためには、まず、みんながハンセン病の知識を知ることが大切だと思う。知識がないと、無意味に差別や偏見をしてしまうため、正しい知識を身につけて、平等な世の中にしてくと良いと思った」</p> <p>生徒の意見②「一人ひとりみんな同じ人間。どんな人でも同じ。その人なりに大変なこと、思いをしながら生活しているから、それを助け合って行動を移すことが大事。「ハンセン病」を学ぶことによって、偏見や差別を許さない態度を身に付けることができた。そして、正しい理解と学習の必要性も学べた。正しい知識を身に付け、偏見や差別のない社会をつくるため、次年度も「ハンセン病」について学習していきたい。</p>	
115	湘南三浦	中2	道徳	かぎりある命をどう生きるか	<p>2年道徳教科書の『奇跡の一週間』の資料を元に取り組んだ授業。筆者の、ホスピスでボランティアをしていた時の経験が主な内容となっている。筆者がホスピスで関わった末期がんの患者は、死ぬ間際まで、真剣に作家活動を続け、作品を完成させた後、すぐに息を引き取られた。ホスピスにいる人は「もうすぐ死んでしまう人」ではなく「一生懸命生きてきた人」と捉え直される話から、限りある命をこれからどう生きることが大切かを考えさせる。</p>	2年道徳教科書『奇跡の一週間』
116	湘南三浦	中3	道徳	ハンセン病問題	<p>日本は長年国策として「らい病予防法」に基づき、この病気にかかった患者たちを全国各地の「療養所」に収容し無理やり社会から隔離した歴史がある。1996年に「らい病予防法」は廃止されたが、回復者は病気が治っても療養所を出してもらえなかったり、偏見差別が続いた。2001年には国策の誤りを認める判決が下されるなど、ハンセン病回復者に対する状況は大きく変わったが、ハンセン病が治った人々やその家族への偏見や差別がなくなったとは言い切れず、差別や偏見が社会に根付いていることを示し、ハンセン病問題をはじめ、差別や偏見をなくすために自分たちには何ができるか、自分事として考えさせる。</p>	<p>自作資料 ハンセン病に関する予備知識のない生徒にとって、動画(国立ハンセン病資料館作成)を視聴させるだけでは理解しがたいと考え、事前にPPでハンセン病の歴史など要点を説明した。またハンセン病問題の実例をもとに、ハンセン病問題を自分事と捉え考えさせた。</p>
117	湘南三浦	中2	道徳	いのちの尊さ	<p>「三つのいのち」について互いに意見を述べ合うことを通して、いのちの「有限性」「連続性」「偶然性」などについて考え、生命の尊さを深く理解し、かけがえのない生命を大切にしていこうとする態度を育てる。</p>	東京書籍 11 いのちを考える
118	湘南三浦	中1	道徳	いじめ	<p>いじめに関する3つの異なる教材を組み合わせることでユニットとして学習し、「いじめ」という一つのテーマを、さまざまな角度や立場から考えさせる。ユニットの学習を通して、被害者、加害者、観衆、傍観者の気持ちを考え、いじめをしない、させない心を育くむ。</p>	東京書籍 4 いじめのない世界へ
119	湘南三浦	中1	道徳	横田めぐみさんについて	<p>DVDを視聴し、人権について学習すると共に、同じように拉致されすぐに亡くなった方など、生死に関わる事件とその後の生活について学習し、人権と人の命の尊さについて学んだ。</p>	政府配布のDVD

120	湘南三浦	中2	道徳	いじめ	1986年に起きた「葬式ごっこ」事件について触れ、いじめに直接かかわった人だけでなく、正義感のある人や、事実を全く知らなかった人も含め、集団として人の命を奪ってしまうこともあり得ることを学んだ。	事件に関する情報を基に作成した自作資料
121	湘南三浦	中3	道徳	がん教育 「がんを知ろう、そして考えよう」	神奈川県的外部講師によるがん教育推進事業を活用し、外部講師とのTTによる授業を展開した。がんの基礎的な知識習得にとどまらず、がんを通して命や人生との向き合い方を考える授業となった。	講師：県立がんセンターからの外部講師 神奈川県発行のがん教育に関する資料（神奈川県がん教育教材資料3-1）をもとに講師のスライドを活用。
122	湘南三浦	中2	道徳	生命・思いやり	家族・親族間での臓器提供に関する読み物資料を用いて、臓器提供を行うかどうか、臓器を提供する側と提供してもらう側のそれぞれの立場から、グループ内での意見交換を通して「自分だったら提供するかどうか」「その理由」などを考えワークシートに記述する授業を学年全クラスで実施した。	
123	県央	中2	道徳	懸命に生きる 『命を見つめて』	大腿骨骨肉腫という病気を中学生の時に患い、病気と闘いながら最後の一日まで精一杯生きた女の子の物語。授業冒頭で「幸せって何だと思えますか？」という問いをした。その中では、「お金持ちになること」「裕福に暮らすこと」のような回答が多かった。この物語を読んでいく中で、「もし自分が重い病気になったらどんな気持ちになるだろうか」ということを考えさせ、今の自分たちと同じ年齢の登場人物の気持ちを推測させた。最後のまとめでは、改めて「本当の幸せとは」について考え、「学校に来て友達と過ごせること」「ご飯を食べることができること」「普通に生きることができること」など、生徒たちの心境の変化を感じることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学道徳「明日を生きる2」 ・ワークシート
124	県央	中1	道徳	生命の尊さ ～より良い生き方について～	本校で取り組んでいる地域道徳の一環として、助産師を講師に招き、講話を通して「生命の尊さ」「よりよい生き方」について生徒に考えさせるために講演会を実施した。今回は、小さな生命と向き合う仕事をしている助産師から話を聞くことができた。自分たちの生命のはじまり、狭い産道を通して大変な出産を乗り越えて生まれてきたことだけで奇跡的なことで、一人ひとりがかけがえのない生命であること。また、妊娠には大きな責任が伴うこと、大切な人ができたら自分や相手の体も心も大切にできるような関係性を築くことが大切など、自分ごととして考えながら、生命について学ぶことができた。	伊勢原協同病院 助産師
125	県央	中2	道徳	生命の尊さ	かけがえのない命を与えられていることに気づいて感謝し、自他の生命を尊重しようとすることを目的として授業を実施した。今回は「自分が生きていると感じる瞬間は何か」という発問を行い、班で話し合いを行った。そして本文を読み、生きていると感じることができるのは命があってこそそのことであり、その命が当たり前ではないことを学んだ。	

126	県央	中3	道徳	一冊のノート	本校では、総合的な学習の時間において福祉体験を取り入れており、その体験の前に相互理解等に関わる道徳を設定している。本題材では、認知症の祖母と主人公の両方の視点から心の動きを捉えさせ、生命は互いに支えあって生きていることや、自分にできることは何かを考える機会となった。家族のことだけでなく、地域の高齢者の方との関わりについても考えさせ、総合的な学習の時間の体験学習へとつなげられるようにした。	中学道徳 あすを生きる3
127	県央	中1	道徳	道徳教育「いじめ防止宣言を作ろう」	6月は2大行事の1つ体育大会を終え、新しいクラスでの生活に慣れ始め、トラブルが起りやすい時期である。そこで本校ではいじめについて考え、友人との関わり方を振り返った。生徒たちは、いじめは良くないことと共通の認識は持っているものの、いじめに当たること・当たらないこと・犯罪になりえることを付箋を使って分類してみると、生徒によって基準が様々であることがわかった。いじめを起こさないために何ができるかをグループで話し合い、自分たちで何ができるかを考え、各学級でいじめ防止宣言を作成した。	参考資料 いじめの定義 (文部科学省HP)
128	県央	中3	道徳	自他の命の尊さ	自他の生命の尊さや価値観を、臓器提供意思表示カードや、子を持つ母と医師の二人の臓器提供に関する投書を通して考えさせた。臓器提供という現代的な課題を通して、生命の尊さを深く理解し、自他の生命をかけがえのないものとして尊重する態度を育てることをねらいに授業を行った。	教材：あすを生きる3 (日本文教出版) 「臓器ドナー」
129	県央	中複合	道徳	子どもの権利について考えよう～あなたの当たり前の世界は、本当に当たり前ですか～	校内人権週間の取り組みの一環として、人権道徳講話会を全校にて対面とオンラインの両方を用いて行った。神奈川県ユニセフ協会より学習支援ボランティア講師を招き、いま世界で起きていることを「子どもの権利」という視点から生徒に講話していただいた。	学年：各学年全クラスで実施 講師・教材：ユニセフ協会
130	県央	中1	道徳	車椅子の介助	体験を通して、車椅子の不便さや大変さを理解し、思いやりについて考え、実践することができるような授業を行った。歩いていると一見大したことのない障害でも、車椅子では大変だということ、それを見かけたら助けてあげようという気持ちの芽生えた生徒もいた。	社会福祉協議会より車椅子を借用した。
131	県央	中複合	道徳	いじめ討議	差別や偏見のない学校生活への願いや思いを共有させ、不正な言動を許さない態度を育てるといふねらいのもと、各学年でいじめをテーマにした授業を行った。1学年ではいじめといじりについて、2学年では、実際にSNSで起こった、いじめの事案を通して、なぜいじめが起きてしまうのかについて、3学年では、どのような行為をいじめと捉えるかについて考え、話し合いを行った。いじめというものに対して、具体例を通して、考えを深め、話し合いをすることによって、改めて自分の行動や考えを振り返り、いじめはいけないということを再認識できた。	各学年、担任が授業を行った。 NHK for schoolや人権作文、実際のいじめ事案を参考資料とした。

132	県央	中3	道徳	臓器ドナー	臓器提供意思表示カードをテーマに授業を行った。まず、「臓器ドナーの制度を知っているか」を生徒に問うと、8割以上がその存在を知っていた。「もし自分なら臓器提供するか？」という発問をすると、グループ内で多くの意見が飛び交った。しかし、生徒の多くは「臓器提供してもよい」と考えており、なかなかその状況（自分の死）をリアルに考えられずにいる生徒もいるのではないかと考えた。そこで、「もし自分の身内なら（ドナーをするか）？」と質問を変えてみると、生徒の表情が変わり、「親がドナーになるのはいや」と言葉を漏らす生徒もいた。いつかは訪れる身内の死というテーマを真剣に考える生徒の表情がとても印象的だった。	「あすを生きる③」 (日本文教出版)
133	県央	中複合	道徳	外部講師から学ぶ	①【相手も自分も大切にできるコミュニケーション】 自分を大切にすることを中心に、友だちとの距離感やコミュニケーションの取り方、幸せの基準などの講演。ユーモアを交えながら時に鋭い話や共感できる話などがあり、生徒たちも元気と勇気をもらった。 ②【生き方を学ぶ】 パラリンピックに出場することではなく、そこで金メダルを取ることを目標に頑張り続けたことや仲間の大切さなどについて講演。生徒たちは、自分自身の経験や今の自分、そして未来の自分と重ねながら聴いていた。	①5月に実施 一般社団法人J CMA 代表理事コミュニケーション講師 ②8月に実施 日本パラリンピアンズ 協会(P A J)の理事
134	県央	中3	道徳	特別の教科 道徳 指導内容項目 D-19 「生命の尊さ」 単元名 「命の選択」	主人公の祖父の肺癌への延命治療について、本人は「望まない」と意思を表していた。しかし、苦しむ祖父をほおっておけない家族が了解し、本当にそれでよかったのかと自問する父の描写と「尊厳死」を巡る新聞への投稿を読み、生徒に「命の選択」をするなら、どうするかという具体的な状況について意見を出し合った。「いのちは大切」という考えだけに留まることのない発展的な意見を交換できる話し合い活動となった。	・学級担任による指導 ・光村図書「きみが いちばん ひかるとき」
135	県央	中3	道徳	特別の教科 道徳 指導内容項目 D-19 「生命の尊さ」 単元名 「命と向き合う」	小学校入学～中学校卒業までの9年間の「命」に関する意識を問う授業。「なぜ命は大切なのか」という既定事項を、個々で思いの異なるような考え方を伝え合うことで、深めることができた。 ①命の偶然性「今ここにいることの不思議」 ②命の連続性「つながりと終わり」 ③命の有限性「命には終わりがある」ということ について文章を読み、意見を伝え合った。	・学級担任による指導 ・光村図書「きみが いちばん ひかるとき」
136	県央	中3	道徳	人権教育講演会	世界情勢が不安定な今を生きる子どもたちに「私たちが暮らしている世界」「国際人道法」「身近な課題」についての内容をもとに人権とは何かを考え理解を深めさせた。	日本赤十字社の方を講師として招聘し、講演頂いた。

137	県央	中2	道徳	生まれることの意味「そこにいるだけでいい」	道徳の授業で、命をテーマにした「そこにいるだけでいい」という教材を使い、生まれることの意味について考えた。死産を経験した母親の心情、その場に居合わせていた助産師の心情が表現されており、授業者の人生経験と関連づけて生徒に生命の尊さを考えさせることができた。生徒の様子としては、自分が生まれてくるまでにどれだけのことがあったのかを考え、一人ひとりの生命のつながりを意識することができた。「命の尊さとかけがえのないものである」という言葉に対して、反対の意見を持つ生徒も数名存在し、「本当に命が何よりも尊いものであるならば、自ら命を絶つ人はいなくなるはずだから、そんなことはない」という意見であった。	授業は学級担任が行い、担任の人生経験から学級ごとに違う視点で行った。
138	県央	中1	道徳	生命の尊さ	題材「母の信念」を通して、「母にガンを告知することに賛成か、反対か」を考えるジレンマ。1年次では初のジレンマ道徳であったが、比較的自分自身の考えを表現することができた。	明日への扉
139	県央	中1	道徳	「捨て犬・未来」(生命の尊さ)	被災地の子どもたちに、「虐待にあい、殺処分直前で命をすくわれた子犬が、今は元気に育っている姿」を紹介することで伝えたかったことは何かを考えることで、命の力強さ、可能性について学んだ。	
140	県央	中3	道徳	支えあう命	中学生の時期に突然余命宣告を受ける状況を自分の事のように受け止めることは難しいと思われるが、あえて道徳の授業で「余命ゼロ 命のメッセージ」の資料を取り扱うことにより、筆者の余命宣告を受けてからの生き方を一人ひとりが考え、互いに支えあって生きていることや精いっぱい生きることの大切さを考える契機とした。	
141	県央	中2	道徳	懸命に生きる	「懸命に生きる」という授業を通して、命の大切さやその瞬間その瞬間をどう大切に生きてゆくかを考えさせた。今自分が生活しているこの状況をどう考えるかといった問いには、なかなかピンと来ない生徒が多かった。しかし、他国の状況とりわけ現在戦争が起きているウクライナや貧困地域が多いアフリカと比較させるといかに自分たちが恵まれているかを考えることができた生徒が多かった。	学年職員による道徳の授業。
142	県央	中3	道徳	「命の大切さ」	筆者が中学1年の時に病気で大学病院に入院し、入院6か月になる高1の子と出会った。何度も病気と闘い天国に旅立ってしまった彼に感謝の思いを示すとともに、命の重さ・決して諦めずがんばる強さ・偏見や好奇心で人を見てはいけないことを考えさせる教材である。 内容項目としては、公正、公平、社会主義だが、公正、公平の違いがあやふやで、その対義語である差別についても漠然といけないうものと思うが、実際にどんなことが差別にあたるか想像しきれない生徒が多かった。教材やイラストを使い、生徒同士の話し合い活動を通して理解を深めることで、日ごろから無意識に行っているかもしれないから気を付けようと振り返る生徒がいた。	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科書 ・公正、公平の違いを示すイラストを使用。

143	県央	中3	道徳	かけがえのない郷土 「稲村の火」余話	大地震後に起こった大津波から村人を避難させるため、地震の田んぼの稲村に火を放つて多くの村人の命を救い、その後も住民の幸せのために郷土を復興すると決意し、津波を防ぐ堤防の完成にすべてをささげた主人公の生き方を通して、自分だけでなく周りの人の身を守ることや自然災害について強く意識させた。また、それに関連させて自分の命を守るためにできることや心がけたいことを確認し、自分自身の安全を確保することに加え、中学生としてどのようなことを求められるのかについて考えた。	日本文教出版 「明日を生きる3年」
144	県央	中2	道徳	命のはなし	助産師さんを講師に招き、生命誕生の仕組みや生命の尊さについてのお話を聞いた。生徒は赤ちゃん人形を抱っこしたり、妊婦ジャケットを着用することで実感を持った。	講師：SUNFLOWER助産院院長 助産師
145	県央	中1	道徳	命の大切さと生命の誕生について	市保健師の講話と、様々な体験活動（胎動体感システム体験、胎児の成長モデルに触れて見学、妊婦体験、赤ちゃん人形を使った新生児のオムツ替え体験、抱っこ体験）を通して、妊娠中の母親の体の変化や胎児と新生児の成長の経過について学んだ。実際に体験することで妊娠中から出産後の親の大変さや新生児の重さを感じることができた。また、10代の妊娠出産についても触れ「親になる覚悟」についても考える様子が見られた。自分も周りの人も親に大切にされて育ってきたということに気付き、親に感謝する気持ちを持ち、命の重さを改めて感じたという感想が多かった。	【講師】 綾瀬市健康こども部 健康づくり推進課 保健師3名 【教材】 胎動体感システム、胎児の成長過程モデル、赤ちゃん人形等
146	県央	中1	道徳	内容項目D-(19) 生命の尊さ	1学年のローテーション道徳として、あふれる愛「マザーテレサの生き方から学ぶ」というテーマで教頭が実施した。全てのクラスで、マザーテレサの生き方からどんな「命」も差別することなく大切なものであることを学習した。生徒はマザーテレサがスラム街で横たわっている年配の女性を医院長に助けてほしいと頼みこむ場面で、どんな命でも助けたいマザーテレサと、多くの命を助けなければいけない医院長の立場の違いを考えた。共に命を守りたい2人の判断の違いや命を大切にす共通点を考え、命の大切さについて多面的・多角的に議論した。	道徳学年ローテーションの1時間として教頭が全てのクラスの授業を行った。
147	県央	中複合	道徳	助産師のメッセージ【命1回目】 (産む方も産まれてくる方も命がけだったね)	全学年の道徳の授業で学年の実情に合わせて「命の大切さ」を考えさせた。助産婦さんのメッセージビデオを視聴し、困難を乗り越えて生を得た経験談をもとにした。産む方も産まれる方も命がけである体験ビデオを通して、自分も周りの人もかけがえのない命であることを実感させる授業を行った。	道徳担当が複数の教材を提示して、各担任が実情に合わせて組み立て授業を行った。
148	県央	中複合	道徳	東日本大震災を経て【命2回目】 (最後まで諦めない命について)	東日本大震災の動画を見て、最後まであきらめずに行動した人のビデオを視聴し、命の大切さを学ぶことや日頃自分を守るための行動を考え、命=時間の使い方を振り返る授業を行った。	命3回目につながる授業展開を各学年で共有し3回の授業をつくった。
149	県央	中複合	道徳	差別意識について	「北朝鮮による日本人拉致問題アニメめぐみ企画制作政府拉致問題対策本部」「解消法から5年 へイトスピーチはいま報道特集」を続けて視聴させ、各学級で差別意識について考えさせる道徳授業を行った。	動画「北朝鮮による日本人拉致問題アニメめぐみ企画制作政府拉致問題対策本部」・「解消法から5年 へイトスピーチはいま報道特集」

150	県央	中2	道徳	いのちの講演会 「生きることの すばらしさ」	看護師を目指したきっかけや現場での命のやりとりを実体験から講話をしていただいた。 病気や障害を持ちながらも懸命に生きようとしている子どもたちや看護師になるきっかけややりがいなど、命の大切さや生きることのすばらしさを改めて実感する内容であった。	講師は日本やアメリカで看護師としての経験をもち、現在は、フリーランスの訪問看護師として小児科医療に携わっている。プレゼンテーションソフトを使いながら、映像を交えた講話をしていただいた。
151	県央	中複合	道徳	どんな命も大切な命	しっぽ村の職員の方に、保護犬、猫に関する経験を事例としていくつかお話し頂き、命について考えた。何があっても、どんな命も大切であること、自分の命を守るためにいろいろな方法をとって生きようとする本能があることに気づき、そこから、私たち人間の生き方、命を輝かせるためにできることを考えた。	講師 しっぽ村（保護犬、猫の飼養、譲渡事業を行っているNPO団体）の職員 全校生徒（中1、2）で実施
152	中	中1	道徳	はるかのひまわり	東日本大震災で家族を失った清和さんが「春香のひまわり」を育てる中で、家族を失った悲しみから立ち上がり、やがて語り部として「生命の尊さ」について伝える活動を始めた。その姿を紹介した物語を選んだ。自身を振り返り、自分が生きていることは、家族をはじめ、自分を取り巻く人々とのつながりを考えることができた。	教科書
153	中	中3	道徳	生命の尊さ	道徳の授業の中で、東日本大震災の日に出産した母の気持ちに寄り添った「あの日生まれた命」について、生命の尊さを考える授業を実施した。子どもの出産を震災の被害や悲しみにより、素直に喜べない気持ちでいるが、「君の椅子」プロジェクトにより、娘が世の中に祝福されていることを実感することができ、娘の誕生について前向きな気持ちになり、生まれたことを素直に喜べるようになったという内容から、一人ひとりの命の大切さについて考える学習の機会となった。	「わたしのいもうと」 (偕成社)
154	中	中2	道徳	生命の尊さ	詩「いのちの音」と、出産を撮影するフォトグラファーの文章や写真を通して、「生きている」ことの尊さについて考えさせ、生命を尊重しようとする心情を育てるねらいで実施した。人は死ぬと二度と戻ってくることはない。自分の命と周囲の人との関わりや、命の有限性、今生きていることの偶然性を見つめ、「生まれる」ことや「生きている」ことの尊さについて考えさせた。	光村図書 題材「命が生まれるそのときに」
155	中	中2	道徳	よりよく生きる喜び	歌詞を題材とした教材で自分を見つめ、人として生きていくことの意義や人間の弱さや醜さを自己に当てはめてよりよく生きようとする心情を育てることを目標としている。歌詞に出てくる「自分」と生徒自身を照らし合わせるような発問をし、自分を見つめて現在の自分を認めつつどのように行動改善をしていけばよいかを考えさせた。	光村図書 題材「あと一歩だけ、前に」
156	中	中2	道徳	生命の尊さ	自分の子どもが脳死の状態になってしまった夫婦が、他の人へ臓器提供するかを葛藤した物語を読んで、生命の尊さを考えさせた。	「つながる命」

157	中	中1	道徳	助産院～親子が うまれる時～ 助産師からの メッセージ	助産師や出産を経験した方が向き合っている「命」への思いを考えることを通して、生命誕生の奇跡、連続性、有限性を理解し、自他の生命を尊重して生きようとする態度を育てることをねらいとした授業を行った。生徒からは「今、自分が生きていることが当たり前ではないことを改めて感じた。せっかくもらった命を大切に精一杯生きていきたい」などの感想があった。	ドキュメンタリー「助産院～親子がうまれる時～」
158	中	中2	道徳	生命の尊さ 「つながる命」	脳死となった女兒の両親が、臓器提供を決断したという新聞記事を通して「命」について考えさせ、生命を尊重しようとする心情を育てることをねらいとした授業を行った。生徒からは「限りある命の中で精一杯生きて次につなげることが大切」、「命があることは普通のことではないから一日一日を大切にしようと思う」等という記述が多く見られ、改めて命の尊さを感じ、命は有限であることを理解することができた。また、「命はつながるもの」等という感想からも臓器移植という、より葛藤が伴う命のつながりや命の連続性についても考える良い機会となった。	光村図書道徳2「つなぐ命」編集委員会
159	中	中2	道徳	生命の尊さ 「命が生まれる そのときに」	林佐知子作の詩「命が生まれるそのときに」と出産を撮ることをライフワークとしているフォトグラファー繁延あづささんの話を読み、生きていることの尊さ、自他の命を大切に生かす生き方について、考えた。震災の話も含まれていたこともあり、話し合いの中で、命が有限であること、命を大切にしようといった意見を出す生徒がみられた。	光村図書 中学道徳2 「命が生まれるそのときに」
160	中	中1	道徳	生命の尊さ	保健所に収容された犬や猫のその後について資料を読み、身近な生き物の命について考えさせた。まずは、個人で考えさせた後、グループで話し合いをもたせた。成果として、生徒一人ひとりが真剣にテーマと向き合い、命の大切さやペットを飼うことへの責任について考えを深めることができた。	道徳教科書 「捨てられた悲しみ」
161	中	中複合	道徳	「いじめ防止教室」	NPO法人エンパワメントかながわの方を講師に招聘し、「いじめは人権侵害で許されない」ということを授業で伝えた。加害者や被害者の具体的な気持ちを生徒に考えさせ、実際ロールプレイ等をした中で、命の大切さやいじめをなくす方法について一人一人が考えた。	NPO法人エンパワメントかながわ
162	中	中複合	道徳	人権教育	難民として来日した方を講師としてお招きし、講演を行った。ひとりひとり違う個性をどうやって理解し、また活かしていくか、実際の難民体験から現在まで、講師の出会いや気づきなどをお話いただいた。実体験をもとに、お話しをいただいたので、生徒達にとって今まで気づけなかったことを、よりリアルに実感する機会となり、人権に対する意識を持ちながら今後の生活へ活かすことを考えるきっかけとなった。	国際教室母国語指導、日本語通訳、横浜市泉区役所生活相談、横浜市候補委企画審議会
163	中	中2	道徳	いのちが生まれる その時に	北海道の自宅での出産の様子を動画で視聴し、生まれてくる命について考えた。動画視聴後は生徒自身で命について考え、発表した。その生徒の反応としては「とても痛そう」、「赤ちゃんが生まれるんだって感じがした」等、生まれてくる命に対して関心を抱くものが多かった。また、赤ちゃんが出てくる向きの話では、赤ちゃん自身が動いて縦向きに出てくることを初めて知った生徒が驚いている場面もあった。	講師：各学級担任動画教材 「ありがとういのち～みんなきみが大切～」

164	中	中3	道徳	SNSの危険性	昨今、校内でSNSのトラブルが多くなってきている。継続的に指導は続けているが、日々、使い方も変化してきている。そこで、スライドでSNSのトラブルの事例を見せ、何が原因なのか、どうすればいいのかをグループで話し合う活動を行った。また、最後にスライドの内容がすべて誰かに作られたもの（なりすまし）であったことを知らせ、危険も含めて考えていけるような授業を行った。	Googleスライドを使いオリジナルエピソードを自主作成。
165	中	中2	道徳	つながる命 「命とはどうい うものだろう」	臓器移植に関する題材である。日本において臓器移植法が成立して25年がたち、臓器移植に対する理解も進んできたとは思いますが、果たして何が正解なのか、どう考えたらいいのか、など率直に考えることができた。デリケートな問題であるがゆえに、ケースバイケースだと考える。この問題を扱うことにより、生と死について思いを馳せ、現状を知り深く考えるよう務めた。	臓器移植法 ドナーカード
166	中	中1	道徳	生命の尊さ 「ひまわり」	東日本大震災で家族を失った自衛官の男性が「はるかのひまわり」を育てる中で、家族を失った悲しみから立ち上がり、語り部として生命の尊さについて伝える活動を始める姿を紹介した教材を扱った。教科書に加え、男性が語り部をしている姿の動画を視聴したり、語りの最後に流す歌を実際に聞いたりすることで、自衛官の男性の心情に寄り添うことができた。授業後の感想に、今ある日常が当たり前ではないことや、自他の命を大切にしようとする思いを書いている生徒が多く、いのちの尊さについて深く考えることができた。	使用教材 ・きみがいちばんひかる とき（光村図書） ・いのちの歌（竹内まり あ） ・「こころフォト」の動 画、手紙（NHK）
167	中	中複合	道徳	生命尊重	全学年が同時に「生命尊重」を主題とする道徳科の授業をおこなった。1年は「エルマおばあさんからの最後の贈り物」2年は「つながる命」3年は「命の選択」を教材とした授業をおこない、ひとり一人がいのちの尊さについて考える時間となった。	
168	中	中複合	道徳	生命尊重	講師を招き、全学年一斉に体育館で「いのちの尊さを考える」と題した講話を受けた。全校クラスごとで行った命の道徳を受けて、命の「有限性」「連続性」「偶然性」について学び、全校で考えを深めることができた。	実践女子大学 非常勤講師 複合学年 1, 2, 3年
169	中	中1	道徳	生命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重する心を育てる	講師に平塚空襲の体験を聞く会の会長をお招きした。講演会では、講師が実際に子供のころ体験した空襲のこと、兄弟が目の前で命を落とし、その悲惨さを認識し、その悲惨さを実感することができた。また、講演会後の感想文からは、平和を守り、人権が保障された社会を維持することの大切さを学んだと書いた生徒も多く、平和学習と人権学習の導入として、とても良い講演会であった。	講師は平塚空襲の体験を聞く会会長が来てくださった。体験談が現実感をもって生徒の心に響いた。
170	中	中2	道徳	公正・公平 社会正義	教材を通して「いじり」と「いじめ」についての具体的な場面や、いじられている子やいじっている子の気持ちをそれぞれ考えた。自分の何気ない言動が誰かの心を傷つけてなにかを振り返り、心を大切にするにはその命を大切にするにつなぐと気付いた生徒も多くいた。また実際「いじめ」によって自ら命を絶つ同世代がいる世の中の現状にも目を向け、改めていじめはよくないという思いを強めたり、いじめをなくすための実践意欲を育んだりすることができた。	中学道徳 「きみがいちばんひかる とき」2年 『明日、みんなで着よう』深めたいむより

171	中	中複合	道徳	泣いた赤鬼	<p>「本当の友達」とはどのようなものかを考えさせ、他者との関わりや信頼をどのように構築していくかを考えさせた。</p> <p>初めに、内容をCDで聞いた。その後、個人やグループでの活動をした。</p> <p>①自分にとって「友達」とはどんな人かを個人でプリントに書いた。そこには「意見の合う人」「一緒に悲しんでくれる人」「一緒にいて楽しい人」など自分と向き合える時間となった。</p> <p>②書いた内容を3～4名のグループとなって、記入した①を共有した。</p> <p>③②で共有した内容をまとめ、個人的に友達になる条件で譲れない順位をつけさせ共有し、人にはそれぞれ価値感があることを伝えた。</p> <p>④①②③を行った上で、「赤おにと青おには本当の友達か」を個人でまず考えさせ、その後グループで共有。生徒を観察する中で反応など様子を伺った。</p> <p>⑤最後に「より良い友達関係を作っていくためにはどんなことが大切か」を個人のまとめとしてプリントに記入し、生徒一人ひとりの変化を見取るようにした。</p>	1～3年の複合式行った。常時、複数の教員を配置した。
172	中	中3	道徳	より良く生きるための豊かな心を育む道徳教育の充実	<p>学習指導要領の内容D(22)「人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見出すこと。」をねらいとして、「人間としての誇りをもって」を主題に授業を行った。教科書を開かず、パネルシアター形式でスライドを提示して話の内容を確認した後、物語の結末について生徒に考えさせた。登場人物の気持ちについて考えるときは、一人ひとりがワークシートに自分の考えを記入した後、グループワークを行い、互いに意見交換した。またグループで話し合った内容を発表して、クラス全体で意見を共有した。</p>	講師は実践女子大学非常勤講師。教育出版「とびだそう未来へ」の中の「カーテンの向こう」をスライドにして生徒に提示することで、物語の意外な結末について考えることができた。
173	中	中3	道徳	節度・節制「安全で節度ある生活」	<p>インターネット上で言葉をやりとりするなかで、知らない間に人を傷つけていたり、自分が傷ついた経験があったり、そういう人もいるかもしれません。そこで、相手の立場になって考え、インターネット上での言葉の使い方をもう一度見直し、自分の生活を振り返り、節度を守り節制に心がけ、安全で調和のある生活をしようとする態度を育てる。様々なパターンについて個人で考え、その意見を元に班で発表し、全体で共有した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法務省委託事業の一環として配付されている資料 ・Jamboardによる班での話し合い活動
174	中	中3	道徳	生命の尊さ「命あるものとの向き合い方」	<p>NHK教育テレビ「道徳ドキュメント」の「サルも人も愛した写真家」という話です。サルを愛してこの地に移り住んだ松岡さんが直面した問題を、「自分ならどうするか」と考えることで、松岡さんの心の揺れに共感するとともに、自然と共存することの難しさと大切さを感じ取らせる内容です。悪いサルの駆除に協力するかどうかという葛藤から考えを深めた。個人の意見から班で考え全体で発表するという流れで進めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の副読本「サルも人も愛した写真家」 ・マンモターによる班での話し合い活動
175	中	中2	道徳	生命の尊さ	<p>「たったひとつのたからもの」という物語を読み、精いっぱい生きることのすばらしさについて、登場人物の心情を理解しながら考えを深めることがねらいである。「精いっぱい生きる」とはどのように生きることであるか、具体的な姿を4人班で話し合い、全体共有した。話し合いを通して、精いっぱい生きることが生命を尊重する生き方であることを認識し、そのように生きることの大切さや難しさを考えることをできた。</p>	教科書：中学道徳②とびだそう未来へ6「たったひとつのたからもの」

176	中	中1	道徳	生命の尊さ	<p>「あなたが うまれた ひ」という詩を読み、生命の尊さやかけがえのなさについて考え、自他を尊重しようとする心情を育てることがねらいである。</p> <p>「今日生まれた命に、あなたはどんな言葉をかけたいだろうか」について、ジャムボードで共有した。</p> <p>最後に、祝福されて生まれた命への初めての贈り物が名前であるという歌を聞いて、自分の命が大切であると同時に、仲間のありがたさにも気づくことができた。</p>	<p>・中学道徳① とびだそう未来へ 1「あなたがうまれたひ」 CD Every Child has a beautiful name 曲と歌詞</p>
177	中	中1	道徳	With you コンサート	<p>アイリッシュハープの演奏を聴きながら、講演をきいた。人は生涯多くの人と関わり生きていくことになる。その中で、相手を思いやり、また自分を認める温かい気持ち、すなおな心が大切だという話をきいた。生徒たちはお互いを認めあい、生きていくことについて考える時間を過ごすことができた。</p>	講師：ハープ奏者
178	中	中複合	道徳	心の健康 ～ストレスとの つきあい方～	<p>事前の実施したアンケートを活用しながら、ストレスの仕組みや対応の仕方について、校内のオンラインで講演を実施した。対応を間違えると危険であることと、ストレスを完全に無くすことは難しいのでどのように軽減すべきかについて、当日の質問も受けながら、具体例を挙げて話をしてもらったので、生徒も身近なものとして捉えることが出来た。</p>	スクールカウンセラーに講師を依頼し、全校生徒を対象
179	中	中複合	道徳	相互理解・寛容 互いの個性や立場の尊重	<p>不確かな情報を基に理不尽な対応をしてしまった経験や、道徳資料の筆者の体験について考えることを通して、物事を多面的・多角的に捉え、自分のこととして考えさせることで、それぞれの個性や立場を尊重し、寛容な心を持って相互に理解し、謙虚に他に学び、自らを高めていこうとする態度について考える機会を設けた。</p>	全校生徒を対象とし、本校独自プログラムのワールドピースキャンペーンにつなげた
180	中	中3	道徳	「ハゲワシと少女」	<p>ある報道カメラマンがアフリカのスーダンで撮影した一枚の写真。そこにはうずくまる少女の後ろにハゲタカがいるというものだった。授業では、カメラマンの行為に対して、グループでの意見交換を中心に行った。生徒は、自分の意見と相手の意見を吟味することを通して、かけがえのないいのちを守ることや世界で起きていることに関心をもつことができた。</p>	参考資料 道徳教科書
181	中	中3	道徳	「サルも人も愛した写真家」	<p>ある地域でサルの被害に苦しむ人々が、長年サルを撮影し、サルに詳しい写真家に対して駆除への協力を依頼する。その写真家がサルのいのちを守るか、住民の生活を守るかの決断に迫られるという内容。生徒同士の話し合いの中で、違った立場から見えるいのちの考え方に触れ、生き物のいのちについてや他の生き物との共存について考えることができた。</p>	参考資料 道徳教科書

182	中	中複合	道徳	いのちの授業 (動物の命)	映像作品「みんな生きている。捨てられる命」(NHKティーチャーズライブラリー)を視聴するとともに、担任によるいのちの授業を通して感じ、考えたことを神奈川県「いのちの授業」作文にまとめ、県に提出した。 ～以下、映像作品紹介文より～ 秋田県動物管理センターでは、捨てられたり、保健所に持ち込まれたりした犬や猫の処分をしている。この1年で、2000匹のペットの命が絶たれた。センターの職員は、動物の命を少しでも助けようとしているが、救うことができるのはわずかである。人間の都合で翻弄されるペットの姿から、生き物を飼う責任について考える。	・中学1, 2年にて実施。 ・NHK映像作品「みんな生きている。捨てられる命。」
183	中	中3	道徳	いのちの授業 (日常の大切さ)	NHKスペシャル「ふり向かずに 前へ 池江璃花子 19歳」を視聴するとともに、担任によるいのちの授業を通して感じ、考えたことを神奈川県「いのちの授業」作文にまとめ、県に提出した。 ～以下、映像作品紹介文より～ “東京五輪最大のヒロイン”と期待を集めながら、白血病で夢断たれた、競泳の池江璃花子さん(19歳)。その再起への舞台裏を記録。初めて明かす過酷な闘病。練習を再開するも体力も筋力も全て失った厳しい現実。それでも持ち前の明るさで後ろを振り向かず、一歩ずつ前に進んでいく。「当たり前前の日常は当たり前じゃない」。新型コロナウイルスの感染拡大で突然日常を奪われた人々に自分を重ね、406日ぶりにプールへと還った。	・中学3年にて実施。 ・NHKスペシャル「ふり向かずに 前へ 池江璃花子 19歳」
184	中	中複合	道徳	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。	毎年「いのちの授業大賞作文コンクール」に全校生徒が取り組んでいる。各学年の道徳科の教材を使用した。随所で話し合い活動や議論する場面を設定したと共に、主人公のふりまいや体験を自分ごととして考えることができた。また振り返りシートや作文には、いのちの大切さを切実に訴える感想が多く見られた。	教材 中1「いのちってなんだろう」 中2「奇跡の一週間」 中3「生まれてきてくれて、ありがとうー助産師からのメッセージー」 出典：東京書籍
185	中	中2	道徳	性教育講演会	「生きる」につながる教育ということで、「性」ではなく「生」を使用した。 生命誕生について知ること、自分や周囲の人の命の尊さに気づくことを目的とした。 エイズを含む性感染症について理解を深めさせるとともに、自他のいのちや体を大切に する意識を養うことをねらいとした。生徒たちは講演を聞いて、性感染症を正しく理解し 自分や周りの人が悲しむ結果になることや、安易な性行動が性感染症や望まない妊娠につ ながることに気づいたと思われる。 いのちの始まりと誕生の話が、特に印象に残ったようだった。講演後の感想からは、い のちの重さと、それぞれが大事な存在であり自他のいのちと体を大切にしたいと感じた様 子がうかがえた。	講師：龍ヶ崎済生会病 院産婦人科医師

186	中	中3	道徳	性感染症	<p>講師を招いて性感染症についての話をしていただいた。性交渉の話と、それに伴うリスクや気をつけるべきこと、身を守るための基礎知識や感染症の危険性と実例など話していただいた。さらには、他者との上手な関わり方、性的マイノリティLGBTQについての知識と現状、命を育むということなど多岐にわたって話をしていただいた。</p> <p>生徒たちは、真剣に話に耳を傾けていた。生徒にとっては、等身大の今の自分たちの悩みにつながる話だった。</p> <p>授業の後は、それぞれ感想文を書いて提出している。生徒たちの作文を読んでも、自分の悩みと照らし合わせて聞いていた生徒や、他者との関わりについて学べたなど、多くの前向きな感想が見られた。</p>	大学医学部職員を講師に招いた。3学年の生徒全体で学習した。
187	中	中1	道徳	命の尊さ	<p>児童文学書籍「二平方メートルの世界で」を読み聞かせ、命の尊さや儚さについて学び、またともに支え合って生きていること、人は一人では生きていけないことなどを話し、学級内学年内での助け合いについてまで言及した。</p> <p>生徒はその後感想文を書き提出した。感想文の中では、本の主人公に共感している生徒や、支え合って生きていることへの感謝など、多くの感想が見られた。</p>	自校教諭 書籍「二平方メートルの世界で」
188	中	中1	道徳	道徳授業 「極限状況を生まないために」	<p>第二次世界大戦に関する映像を視聴し、戦時下の生活について知っていることを発表して確認した。日本国内の話から始め、ドイツのホロコーストの話を紹介した。極限状況におけるユダヤ人父子の話「夜」(エリ・ヴィーゼル著)を読んだ。自分が生きのびるために、自分にさえも気づかないように父親を見捨ててしまい、戦後、その時のことを何度も何度も思い出すという内容の話です。極限状況における人間の弱さを理解し、極限状況を生まないために何ができるかを話し合った。</p>	『本の虫ではないのだけれど』 清水眞砂子著 戦ふ少国民(電通)
189	中	中2	道徳	道徳授業 「つながる命」	<p>「死」には「心臓停止」と「脳死」の2つがあることを知らせ、2つの死の違いを説明した。その後、臓器提供を受けた側と、臓器提供をした側の話を紹介した。どちらの側にも迷いや苦悩があることを理解し、臓器提供を決断した家族はどんな思いで臓器提供をすることを決めたのかなどを考えることを通して、生きる意味について意見を交換した。自分のために生きる、他社のために生きる、ということの他に、誰かに生かされていることもあるということに気づいた。</p>	光村図書道徳教科書 毎日新聞
190	中	中2	道徳	生命の尊さ	<p>光村図書中学道徳「いのちが生まれるそのときに」を教材として活用した。小豆を一人ひとりに配付し、初めて心臓が鼓動を始めたサイズであることを生徒と確認して、「生きていることを実感したこと」について考えを交流した。赤ちゃん誕生の動画やから1つのいのちが誕生することの確立、奇跡的であることを共有し「生きる意味」についてそれぞれ考えグループで話し合った。生徒からは「育ててくれた両親への恩返し」「周りの人を悲しませない」「楽しむこと」「挑戦すること」等感謝の気持ちを大切にしながら前を向いて生きていこうとする思いをそれぞれの発表から感じる事ができた。</p>	光村図書中学道徳 「いのちが生まれるそのときに」 youtue 「赤ちゃん誕生 感動の出産映像」

191	中	中3	道徳	生命の尊さ	光村図書中学道徳「あの日 生まれた命」を教材とし東日本大震災の被災者への支援プロジェクトをめぐる実際のお話を通してみんなが当然のように考えている「命を大切にす る」とはどういうことなのか一人ひとり考え、クラスの仲間と意見を交流した。震災の日 に生まれた命、失われた命、それを思う心情等多感な中学生の心に響いたようであった。 「命はありがたいもの」「いつどんなときに生まれた命であってもそれは奇跡で尊い」 「無駄な命なんてない」「自他の命、全ての命を大切に生きていきたい」等の意見が 飛び交った。	光村図書中学道徳 「あの日 生まれた 命」
192	中	中3	道徳	人間の命とは 一人間の命の尊 さ・大切さを考 える	尊厳死をめぐる裁判をもとに、身近な人の死を左右する立場になったら、どのように判 断するかを考えることで、自分事として捉えさせ、生命尊重・生命倫理について考えさせ た。授業者による「母親に対して尊厳死を選択した経験」を聞き、「自分がもし、大切な 人の命を左右する立場になったときどうするか」について考えを電子端末上のアプリ内で 共有した。大切な身近な人の死を経験したことのある生徒は少なかったが、ワークシート や発言等から自分事として捉えることができていた。また、命が永遠ではないことをあら ためて考え、自分の命だけではなく周りの命もかけがえのないものであると再認識するこ とができている生徒がいた。	出典：『新しい道徳』 東京書籍
193	中	中複合	道徳	生命の尊さ	全学年対象に夏休みの課題として実施。4年目の取り組みとなる。「命」や「生命の尊 さ」について考えさせられた新聞記事・投書（ネットニュースも可）について、①記事を選 んだ理由、自分の考え、②家の人の感想、考えをスライドにまとめ提出させた。2学期 の道徳の授業で、級友のスライドを見合い、考えを共有し、また校長が全生徒の感想を読 み、「命についての考え」をフィードバックすることで、更に「命」についての考えを深 めた。	夏休みの教科の課題とと もに、一覧に載せた。道 徳担当がクラスルームに スライドを投稿・配布し た。提出されたものは、 PDFにしてクラスで共有 し、考えを交換した。
194	中	中複合	道徳	生命の尊さ	事故により一時は全身麻痺の重症を負ったが、懸命のリハビリで社会復帰を果たした講 師を迎え、全校生徒および保護者を対象にオンラインで講演会を開催し、「いのち」につ いて親子で考える機会を設けた。（3年ぶり2回目となる） 事前に講師が出演した番組を視聴させ、講演後と合わせて2回感想を書かせた。自分の 周囲の人や環境に感謝し、「命」を輝かせる生き方について真剣に考えようとする記述が 見られた。後日、講師が来校し、各クラスを訪問しメッセージをくれた。	○講師はかつて中学校の 体育教師であり、身近な 存在であり、自我関与し やすかった。 ○テレビ番組「アンビ リーバボー」の動画を事 前に視聴したため、講師 の言葉に説得力が増し た。
195	中	中1	道徳	いのちの授業① 「生命誕生と個 性について」 いのちの授業② 「国境を越えた 救出劇」	いのちの授業①では、『生命誕生ダイジェスト版』を視聴し、生命誕生の神秘を知り、 自分と周りの人との違いや「人を大切にす る」とは、どうということだろうかについて意見 交換をしながら考えた。 いのちの授業②では、大やけどをおったコンスタンチン君を国境をこえて助ける医師に ついての映像を視聴した。「今生きていられることの感謝する」「相手を思って行動す る」「自分を大切にす る」「お互いを尊重する」など生命の尊さに ついて、それぞれ自 らの考えを深めた様子 がうかがえた。	授業者は学級担任 各学級での指導 映像はNHK「プロ ジェクトX」より

196	県西	中1	道徳	生命の尊さ(思いやり、家族愛)	イソップ童話「アリとキリギリス」を題材に、キリギリスを見殺しにしたアリは、保護責任者遺棄致死罪で有罪か無罪か映像をもとに考えた。アリの妻、キリギリスの母からの証言から、自分なら家族と友人の命どちらを選ぶか真剣に考え、意見を交換して有罪か無罪か判断した。	NHK for school 昔話法廷
197	県西	中3	道徳	生命の尊さ	自らの生命に限りがあることを自覚した主人公が、生き方を見つめ直し、どう生きるかを考え抜く話を読んだ。主人公ほどではないが、皆の命が同様に限りのあることを共有し、生徒一人ひとりが今後どのように生きていきたいかを考えた。生徒が書いた振り返りの文章から、生命を愛おしみ、大切に育み、そして生きること喜びを見出そうとする考えが見られた。	東京書籍 新しい道徳3 『たとえぼくに 明日はなくとも』
198	県西	中1	道徳	「ゆうへ〜いき ていてくれてあ りがとう」 つながる命	多くの人々の支えによって生きていると気づくことで、誰もがかけがえのない存在であると理解し、互いの存在を大切にしようとする実践意欲を育む内容を扱った。 母をがんで亡くした生徒は、寿命でなくても、他の原因で亡くなってしまうこともある。生きているということがとても大切なことなのだとすることを噛みしめていた。	「中学道徳 あすを生 きる 第1学年」(日 本文教出版) D-(19)生命の尊さ
199	県西	中3	道徳	「臓器ドナー」 自他の生命の尊 さ	臓器提供という現代的な課題をとおして、生命の尊さを深く理解し、自他の生命をかけがえのないものとして尊重する態度を育てる内容を扱った。 生徒各々が自分のこととしてとらえ、真剣に「いのち」について考えた。立場が違えば、考えも変わることも感じ、それぞれにとって大切な「いのち」があることを理解した。自分であったらどうするか、真剣に考えた。	「中学道徳 あすを生 きる 第3学年」(日 本文教出版) D-(19)生命の尊さ
200	県西	中2	道徳	「生命の尊重」	中学生の実際の闘病の日記を読んで、「生きていると感じるのはどんなとき?」「本当の幸せって何だろう?」という問いを通して、自分自身と向き合い命の大切さについて考えた。その中で、「生きていることは当たり前ではない。」「生きたくても生きられない人がいる。」「生きてさえいれば状況を変えることができる。」など、多くの生徒が命の大切さについて改めて気が付くことができた。	『中学道徳 あすを生 きる②』日本文教出版
201	県西	中2	道徳	輝く生命	本教材は、筆者の「私」が病院でナースの体験をしたときの感動をつづった生徒作文である。赤ちゃんに触れたこと、出産を控えた母親との出会いを通じて、生命の尊さと生きることの真剣さに気づいた「私」の考えに共感させ、自他の生命を尊重する意欲を培うことをねらいとした。生徒からは、「周りの人の支えに感謝して生活していきたい。」「自分が親になったら、子どもを大切に育てたい。」などの振り返りが見られた。	あすを生きるP102
202	県西	中複合	道徳	命を食すこと	大阪府立農芸高等学校で生徒が自ら育てた鴨の命を奪って食すまでの流れを動画で視聴した。生徒はひなどりだった鴨を高校生が大切に育てる様子を見て、人間に食べられるために育てられる切なさを感じた。一方で、牛や豚も同じように育てられ給食に出されているのかと気付き、「いただきます。」という感謝の気持ちと生き物の肉は残さず食べるという気持ちを強くした。	道徳担当・特別支援学 級・「育て、奪い、い ただく。」(視聴教 材)

203	県西	中3	道徳	共に生きる社会の実現 (No charity, but a chance!)	パラリンピックの選手や障害を持っている方の社会進出において、何が大切であるかということ深く考える学習。障害者スポーツをもっと盛んにするためには、スポーツを楽しむことと、その後の生きがいとなる「仕事」や社会保障が必要で、最新の企業雇用の様子を紹介した。共に生きるには、それぞれの立場で何ができるか考え、実践することが大事である。	3年道徳教科書 明日を生きる 「No charity, but a chance!」 (日本文教出版)
204	県西	中2	道徳	命の価値	導入では、深澤久編著「命の授業」(明治図書)の考え方をを用いた。生徒一人一人の大切な人を思い浮かべることから始まり、命の値段を考える話し合いを通し、改めて命の重さを考えさせた。 展開の場面では、導入の内容を意識させつつ、一人分しかない薬をどのように分けるか・だれに与えるかを考えさせ、その判断の過程においての話し合いを通し、生命を尊重する意識を深めさせた。同時に、いじめの問題・現代医学の進歩に伴う、臓器移植等を行う上での倫理的な問題に関連させ、広い視野を養えるよう行った。終末においては、本時の内容と話し合いの過程を振り返らせ、今後生活する上で友達や家族とどのように関わっていけばよいのか改めて考えていた。	参考文献「命の授業」 深澤久編著
205	県西	中1	道徳	生命の尊さ	様々な年齢・性別・立場・家族構成の6名が乗った船が座礁したとき、自分ならどの4人を救命ボートに乗せるかを考える授業を行った。選択した理由と選択しなかった理由をそれぞれ考えさせ、4人班で考えを伝え合った。その後、違う4人班で2度目の話し合いを行った。全体の発表では、できれば全員を助けたい、必要のない命など存在しない、生きようとする力は強い等の意見が生徒から出ていた。最後に命に関する詩を読み、一部空白にしてある部分に自分ならどんな言葉をあてはめるかを考え紹介しあった。	
206	県西	中3	道徳	いのちの大切さ 「エリカー奇跡のいのち」	生きていることの奇跡と尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重しようとする心情を養うことをねらいとし、授業の中で意見交換をした。 第二次世界大戦中、強制収容所にユダヤ人を送る車内での親子を回想する形で描いた作品「エリカー奇跡のいのち」を読み、母親や育ててくれた女の人の思いを考えることで、生命の尊さについて深く考えることができた。また、「死」へ向かう車内で母親がした決断についても考え、生きていること、生命のつながりについても考えることができた。	3年生の全クラスで道徳の時間に実施した。生命の尊さについて考えることができた。 (参考資料)日本文教出版 あすを生きる3 「エリカー奇跡のいのち」
207	県西	中複合	道徳	「つながるいのち」臓器移植をテーマに命について考える	臓器移植を題材に、中学生を主人公としたドナーの存在や臓器提供の意思表示について考える映像資料と、臓器提供意思表示カードなど資料を使い、基礎的な知識を学習した。臓器提供を決断した家族の話と、臓器移植を受けた人の話から双方の立場について考え、意見を交換することで誰にでも起こりえる自分事として考えた。	公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク 「つながるいのち」映像資料 臓器提供意思表示カード
208	県西	中2	道徳	生命の尊さ	主人公が、病院でナースの体験をした時の話。一人前のナースのように扱ってもらい、出産を控えたお母さんとの出会いや、生まれて数日の赤ちゃんに触れたことなどから、命の尊さと、生きることの真剣さを体験した。帰宅後、自分の母から自分の出生の話聞き、家族が自分をいかに愛情深く育ててくれたかを知る。主人公の考えに共感しながら、生命の尊さについて考えることができた。	対象学年：中2 教材：「体験ナースをとおして」日本文教出版

209	県西	中複合	道徳	多様な性に関する講演会	性のあり方は多様であり、一人一人の大切なアイデンティティを尊重することを理解したうえで、認め合う人間関係を構築しようとする心を育むことを目的とした。生徒は、学級に数人はLGBTで悩む人がいてもおかしくないことや、様々な性の在り方を受け入れられる社会や心を育むことの大切さを学んだ。	(講師) LGBTQに関する啓蒙活動をされている方 全学年1時間ずつ講話
210	県西	中1	道徳	生命の尊さ	60年前のインドでは、死を待つだけの人々が数多くいて、そのような人たちをけっして放っておかないマザー・テレサの生き様に触れている教材である。生まれてきた大切な生命について、生きるの意味と生命を助けるの意味を考えさせることをねらっている。初めは自分ごととしてとらえることが難しくイメージをもてない生徒も見られたが、友人の考えを聞く中で、生命に重いも軽いもなく、どんな生命でも大切にしたい気持ちをもつようになった。ワークシートには、マザー・テレサほどのことはできないけれど、すべての生命に対して平等にそして大切に接していきたいと記述が見られた。	中学道徳 あすを生きる 1年
211	県西	中3	道徳	生命の尊さ いのちを考える	「今あるこのいのちをどう考えていくか」という問いについて考えを深めた。資料を範読し「助産師さんが真剣に向き合う理由はなんだろうか」などの問いを通して、いのちとは何かを考えた。自分の生命が誕生するためには、どのような協力や思いがあっただけなのか、深く考えた。最後にこれからどのような考えを持って生きるのかを各自でまとめた。	新訂 新しい道徳3 東京書籍
212	県西	中2	道徳	かけがえのないいのち	教科書の「奇跡の一週間」と「妹に」という2つの題材で、生命の尊さや生命のつながり、関わり合いについて学習した。もし自分が「死ぬ」運命だとしたらどのように生きるかということ、登場人物の言動と対比して考える学習活動などを通して、「かけがえのないいのち」について自分事として捉えることができた。2時間の授業後、「いのち」について考えたことを作文にまとめる学習を1時間行った。 自分の身近な人の亡くなる「いのち」、生まれてくる「いのち」、動物の「いのち」、自分が生きることの中にある「いのち」などをテーマに作文を書くことができていた。言語化することで自身の考えを整理することができ、改めて「いのち」の儚さや、尊さを感じることができている様子が見られた。	授業者：中学校の教諭 教材：教科書 新訂 新しい道徳2 (東京書籍)
213	県西	中3	道徳	尊厳死	教科書の「人間の命とは一人間の命の尊さ・大切さを考える」の題材を通して尊厳死をめぐる裁判をもとに、生命の尊厳についてさまざまな立場から多面的・多角的に考え、生命倫理について関心を深める学習をした。 22歳という若さで意識を失い、人工呼吸器を装着されたカレンさんに対して、医療措置を打ち切るかどうかについて考えるだけではなく、家族や主治医、裁判所等のそれぞれの立場に立って考えることで生命尊重への見方、考え方をより深めた。 意識が回復する可能性はゼロではないという考えや命を救う立場、法を守る立場として命を奪うことは許されないという考えで作文を書くことができた。また、自分がいつかそうなった時に周りに迷惑をかけないように、自分の意思を日頃から家族に伝えておきたいという考えをもつ生徒もいた。	授業者：中学校の教諭 教材：教科書 新訂 新しい道徳3 (東京書籍)

214	県西	中3	道徳	生命の尊さ	<p>教員自身が、幼い頃に兄を失ったことから、母親の哀しむ姿をずっと見てきた。そして、自身の出産・子育てを通して、子は親にとって命に代えてでも守りたい大切な存在なのだということを、生徒に伝えた。その上で、生命の誕生に際して、お母さんも赤ちゃんも頑張っているのだという助産師のメッセージが書いてある教材を読んだ。生徒たちは、命がけで生んでもらったことや、今生きていることは「当たり前ではない」という思いを共有することができた。</p>	<p>新訂 新しい道徳3 東京書籍 「生まれてきてくれて、ありがとう—助産師からのメッセージ」</p>
215	県西	中2	道徳	道徳教育 「生命の尊さ」	<p>生命とはかけがえのないものであり、自己の生命だけでなくすべての生命を軽々しく扱ってはならない。しかし、中学生は生命の尊さについては自覚したり考えたりする機会があまりなく、自己の生命に対するありがたみを日常で実感できている生徒は多くない。この学習を通して生徒の振り返りから、「社会秩序を守ること」と「生命を尊重すること」の間で葛藤し、互いの意見を交流し、より深く命の重さについて考えた感想が多く見られた。</p>	<p>参考資料 「奇跡の生還」 「モラルジレンマによる討論の授業（中学校編）」荒木紀幸編（明治図書）より</p>
216	県西	中3	道徳	いのちを考える 「生まれてきてくれて、ありがとう—助産師からのメッセージ」	<p>生命の神秘を体験できるように、生徒全員に針の穴が開いた紙と小豆1粒を配った。針の穴は、卵子の大きさ、小豆1粒は、妊娠初期の胎児の大きさであると伝えると、生徒はととても驚いていた。また、養護教諭が、自らの出産・育児の経験を語り、生徒はこれまで生きてきたことや家族の思い、自分自身のことを振り返り、改めて命を深く考えるきっかけとなった。</p>	<p>講師は、本校養護教諭</p>
217	県西	中1	道徳	いのちを考える	<p>自分の考える「いのち」というものを個人で考えさせ、その後、グループ内で自分の考えを伝える。他者の意見から「いのち」というものを考え、自分の考え以外の「いのち」というものを感じる。その後、詩を読み、「自分自身の『いのち』というものは限りがあるが、『ひかり』でもあるという。なぜ、『ひかり』なのか」という問いかけから、「いのち」とは尊いものであり、一人一人の「いのち」というものへの考えをより多角的に捉えるきっかけとなった。</p>	<p>東京書籍 新しい道徳1 「あなたはひかり」 学年職員</p>
218	県西	中3	道徳	国際社会 国際貢献	<p>外国の子どもに関する4枚の写真を見せて、それぞれがどんな状況なのかを各自で考えさせた。写真について考えたことをグループで共有したのちに、全体で確認した。世界には子どものうちに亡くなってしまいう人が多いこと、危険と隣り合わせの状況で育っていること、貧困状態に苦しむ子どもがいることなどについて考えた。生徒自身の生活と比較して考え、自身の生活の中で協力できること、今後実践してみようと思うことなどを考えていくきっかけとなった。</p>	<p>東京書籍 新しい道徳3 「その子の世界、私の世界」 学年職員</p>
219	県西	中3	道徳	「余命ゼロ 命のメッセージ」	<p>誠実に生きてきた主人公は、余命宣告を受けて投げやりになるものの、周りの人々に支えられてきた自分の命に気付き、若い人たちに命の大切さを訴える講演を決意するという内容である。教材を通して、主人公の生き方に感銘を受ける生徒や改めて生命の尊さに気付く生徒、支えられている命、精一杯生きることの大切さなどへの思いを深めている生徒がいた。</p>	<p>新・中学生の道徳 「明日への扉3年」</p>

220	県西	中2	道徳	「ブラック・ジャック ふたりの黒い医者」	一生身動きがとれないと診断され、安楽死を願う母親と、その母親に動けるようになって欲しいと願う子供たち、その両者に対して、それぞれの願いを叶えよとするドクターキリコとブラックジャックの話である。相反する価値観や不慮の死を通して、生命の尊さについて深く考えさせることをねらいとした教材である。本教材を通して、生命の尊さや生命のかけがえのないことについて、自分自身との関わりの中で考えを深める様子があった。	新・中学校道徳 「明日への扉2年」
221	県西	中複合	道徳	命の大切さ 「がんとともに生きる」	全校道徳として体育館でNHKの「なやみのタネ」という番組の1本「水戸部さんのなやみ」（約10分）を視聴し、1年～3年生の縦割りのグループに分かれて話し合った。がんを患いながらも、家族のためにできることを考え、生きがいを見つけて生きていく水戸部さんの姿に、自分や家族を重ね合わせて考える生徒が多かった。命の大切さや家族の大切さについて、自分たちで「テーマ」を設定し、そのテーマについて深く考え議論していた。	「SEED～なやみのタネ～」NHK for school 「水戸部さんのなやみ～家族の幸せのために何ができるだろう？～」